

**2022年度
日本語・日本文化研修留学生**

研究レポート集 XX

**2023年9月
三重大学 国際交流センター**

❀ 目 次 ❀

2022 年度 日本語・日本文化研修留学生 名簿	1
◆ ベトナムの大学における障害者の学生支援について — 視覚障害者支援を例に— レ ウゝ タイン チャン (ホーチミン市師範大学)	2
◆ 日本の歌舞伎文化の展望 — 滝沢歌舞伎を例に— ファディラ ザーラ サーディア (パジャジャラン大学)	14
◆ 日中家族映画が日本語・日本文化学習及び異文化交流へ及ぼす影響 — 『歩いても歩いても』と『一一』における家族の喧嘩場面を例に— リュウ ギョウエイ (江蘇大学)	29
◆ タイ語版三重県ガイドの効果とタイ人観光客の意識 ゲートイン ティティガーン (チェンマイ大学)	48
2022 年度 研究成果最終発表会 修了式の風景	63
2022 年度 日本語・日本文化研修留学生プログラムの概要	65
編集後記	68

2022年度 日本語・日本文化研修留学生 名簿

(2022年10月～2023年8月)

氏名	国籍 (母国の所属大学)	性別	専門領域	身分	指導教員
レ ウ` タイン チャン LE VU THANH TRANG	ベトナム (ホーチミン市師範大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	福岡 昌子 (国際交流センター・教授)
ファディラ ザーラ サーディア FADHILA ZAHRA SAADIYA	インドネシア (バジャジャラン大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	正路 真一 (国際交流センター・助教)
リュウ ギョウエイ LIU XIAORONG	中国 (江蘇大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	松岡 知津子 (国際交流センター・准教授)
ゲートイン ティティガン KETIN TITIKAN	タイ (チェンマイ大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	松岡 知津子 (国際交流センター・准教授)

(学籍番号順)



左からゲートイン ティティガンさん、ファディラ ザーラ サーディアさん、リュウ ギョウエイさん、レ ウ` タイン チャンさん

ベトナムの大学における障害者の学生支援について

—視覚障害者支援を例に—

レ ヴ タイン チャン

University support for students with disabilities in Vietnam.
—The example of university support for visually impaired students—

Le Vu Thanh Trang

<要旨>

本稿は、ベトナムにおいて、障害者への支援政策が進まない原因とベトナムの大学における障害者への支援状況を解明する。また、ベトナムの大学生における必要とされる視覚障害者への学生支援のあり方を模索した。データ収集方法としては、アンケートを実施した。アンケートの回答者は、ベトナムのホーチミン市師範大学1名と三重大学1名の視覚障害者、ベトナムでの各大学15名と三重大学15名（健常者）、ベトナムのホーチミン市師範大学政治教育の学生関係事務と三重大学の障害学生支援センターであった。

調査の結果、障害者への注目度が両国で異なっていることがわかった。まず、ベトナム人の大学生（健常者）の障害者への理解度が低いことがわかった。また、両国の大学の提供している支援内容が異なっているということが明らかになった。さらに、ベトナム大学には、日本のような障害がある大学生向けの特別な支援体制や対策は行われておらず、日本より遅れていることがわかった。今後の課題としては、ベトナムの大学は、今後も障害者への支援体制をより改善していく必要があり、ベトナムの大学ができる支援体制の改善策、大学生の支援状況への関心度の高め方についてより具体的に検討していきたい。

キーワード： 障害者、視覚障害者、学術支援、学生支援、施設課、健常者・障害者アンケート

1. はじめに

ベトナムでは、2013年より学力に応じて障害者に奨学金を与える政策も定められ、大学における障害者は健常者のように教育を受けられるようになった（「ベトナム教育訓練省」2013）。しかし、ベトナム統計総局の『障害者の全国調査』（2016）によると、大学・短大教育を受けた障害者の割合は40.16%で、健常者の割合83.91%と比べると未だに大きな差があり、ベトナムの大学において障害者に対する教育面の学生支援は十分ではない。

一方、日本においては2014年に世界で140番目の批准国として「障害者の権利に関する条約（Convention on the Rights of Persons with Disabilities）」が締結され、「障害を理由とする差別の解消

の推進に関する法律」(2013) (以下「障害者差別解消法」) が成立した。中でも、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(2005) や日本学生支援機構による支援施策によって、点字ブロックや音響式信号機などの障害者の移動支援、点訳、教材のテキストデータ化など、視覚障害者への支援は他の障害者支援よりも、十分ではないものの比較的順調に進んできているように思われる。

障害者の定義に関して、ベトナムの法律では、「身体の 1 つの部分、又は一つ以上の部分に欠陥がある者か、仕事、生活、学習に困難を引き起こす障害の形で現れる障害がある者」と定義している(「ベトナム障害者法律」 2010)。一方、日本では、障害者基本法における「障害者」とは、「身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害がある者であつて、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」と定義している(「障害者基本法」 2013)。

なぜベトナムにおいて、障害者への支援政策が進まないのだろうか。ベトナムでも、日本における障害者支援政策の基礎となる支援政策が行われれば、より改善されていくのではないだろうか。本研究では、日本でも比較的順調に支援政策が進んでいる視覚障害者を採り上げ、視覚障害者への支援の現状、様々支援施策を調べ、ベトナムにおいてどのような支援施策が可能か理解する。また、ベトナムにおける視覚障害者の大学生の大学生活の支援状況、支援が進まない要因を調べるため、日本とベトナムにおける健常者と視覚障害者の大学生生活状況についてアンケート調査し比較する。そして、必要とされる視覚障害者への学生支援のあり方について考えたい。

2. 先行研究

2.1 障害者への人権に関する条約

世界では障害者への人権に関する法律ができたのは、21 世紀に入ってからである。世界で最初に障害者のために作られた国連の条約は、「障害者の権利に関する条約 (Convention on the Rights of Persons with Disabilities)」である。障害者権利条約は、「障害者の人権及び基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進する」ことを目的として、障害者の権利の実現のための措置等について定める条約である。この条約は、2006 年 12 月 13 日に国連総会において採択され、2008 年 5 月 3 日に発効した。

この条約に基づいて、多くの国々では障害者の権利に関する法律が独自作られるようになった。そして、障害のある大学生への配慮についても検討されるようになった。先進的な国として、イギリスやアメリカがある。しかし、イギリス、アメリカにおける障害のある大学生の現状を見ると、大学に入学する障害者が増えてきているが、障害者の大学生活は様々な問題を抱えている。

アメリカでは、「Faculty Attitudes and Knowledge Regarding College Students with Disabilities (2015) の研究によると、支援する側の大学関係者の障害者への支援方法について知識や理解の不足があるため、障害を持つ大学生のニーズや必要な支援がわからないことに要因があると指摘している。また、イギリスは日本より早く 2009 年に「障害者の権利に関する条約」を締結しているが、アメ

リカと同様に、支援する側の大学関係者の障害者への支援方法について知識や理解の不足があるとの指摘がある (Kendall, L. 2016)。大学内の移動支援や教室の機能や図書館や支援サービスなどで、障害者には支障があるということがわかった。

2.2 ベトナムの大学における障害者支援の状況

ベトナムにおいては、世界で 118 番目に先述した国連の条約である「障害者の権利に関する条約 (Convention on the Rights of Persons with Disabilities)」を締結した。その後、「ベトナム障害者法律 (Law on Persons with Disabilities)」(2010) が出され、ようやく障害のある大学生は健常者と同様の教育が受けられ、学力やニーズに応じて奨学金を得られるようになった。さらに、障害用教材などを提供することも定められた。

Nguyễn Tuấn Anh (ハノイ外国語大学) の「Essentials for an inclusive tertiary education for visually impaired students」(2020) によると、障害者に適切な教育を行うために、技術開発 (ソフトウェア) が行われ、視覚障害者のための点字を使ったテキストの開発が進んだ。しかし、点字ブロックや音響式信号機などの障害者向けの移動支援はほとんどなく、障害のある大学生向けの適当な支援政策やプログラムは整備されていない状況にあり、ベトナムの大学における障害のある大学生の支援は遅れていると言える。

2.3 日本の大学における障害者支援の状況

「はじめに」で述べたように、日本では、2014 年 2 月 19 日に障害者の権利に関する条約により、障害者の権利の実現に向けた取組が一層強化されることになった。

日本の大学において支援機器・視覚補助具については、視覚障害者専用のインターネットブラウザ・ワープロソフト・メールソフトや携帯用点字端末や卓上型拡大読書器や画面読み上げソフトが活用されている。そのため、学生便覧や履修要覧も電子データなどの独力で読める形態で資料を入手できるようになった。それだけでなく、一般の学生向けにウェブサイトに掲載された学生便覧や履修要覧を、パソコンなどで自分の読みやすい大きさの文字にしたり、コントラストを変更したりして見やすい状態で読めるようになってきている。

しかし、視覚障害のある大学生は図書館・参考資料室の利用頻度が低く、その理由としては利用できる資料が整っていないこと、十分な人的支援が受けられていない状況にある (注 1)。日本の大学は、視覚障害者の支援は十分に準備されていないが、視覚障害者支援を準備すべきだという意識があるため、ベトナムは日本の視覚障害者支援を参考にして支援方法を考えるべきである。

3. 調査の方法

(1) 期間：2023 年 3 月～2023 年 6 月

(2) アンケートの対象者：①視覚障害者：ベトナムのホーチミン市師範大学 1 名 (弱視者) と三重大学 1 名 (弱視者)。②健常者：ベトナムでの各大学 15 名と三重大学 15 名。③大学担当者：ベトナムのホーチミン市師範大学政治教育の学生関係事務と三重大学の障害学生支援センター

(3) アンケート内容：

- ・ 視覚障害者：①大学からの支援方法と内容、②友人からの支援方法と内容、③今後大学における支援方法と内容（注2）
- ・ 健常者：①大学が視覚障害者に対して行っている支援内容、②友人としての支援方法と内容、③今後の大学における支援方法と内容
- ・ 大学担当者：①今後の大学における支援方法と内容、②将来の計画について

4. アンケートの結果

4.1. 視覚障害者へのアンケート

本調査の回答者は、ベトナムホーチミン師範大学4年Aの1名と三重大学4年生Bの1名で、両者とも視覚障害者（弱視者）である。

4.1.1. 日本人とベトナム人の視覚障害者の大学生へのアンケートの結果—比較

Aは、大学入学の際に自分が視覚障害者だと知らせてあったが、障害者ということで教員や友達から差別されたことは全くなく、周りの健常者によく助けてもらったそうである。大学から受けたことのある支援としては、①教材のテキストデータ化 ② パソコンの持込使用許可 ③講義に関する配慮 ④授業内容の代替、提出期限延長等 ⑤ 履修支援などがあつた。

一方、Bも大学生に入学する際に、大学側に自分が視覚障害者だと知らせてあったが、同様に教員や友達から障害者ということで、差別されたことはなく、周りの健常者によく助けてもらっていた。大学から受けたことのある支援については、①点訳・墨訳 ②教材の拡大 ③教室内座席配慮 ④試験時間延長・別室受験などである。

以上の答えから、両者は、大学在学中は教員や友人から多くの支援を受けたものの、支援内容はほとんど違っており、日本の方がより視覚障害者向けの支援が充実していたことがわかつた。

4.1.2. 組織の支援体制と今後支援対策について

障害者への支援組織の有無について尋ねた結果、ベトナムホーチミン市師範大学では支援組織はなかつたが、健常者向けの施設組織から、教材のテキストデータ化、読み上げソフト・音声認識ソフト使用などの支援を受けたとのことであつた。一方、三重大学では配慮依頼文書の提出の依頼があつた。

次に、「今後、さらに、大学からどんな支援があると、助かりますか？」の質問については、Aは現在ベトナム大学で提供されていない「点訳・墨訳」と答え、Bは「実技・実習配慮」と答えた。また、障害者であるということを、周りの健常者が認識し、支援をしてもらえるように、授業の中で教員等から紹介してほしいですか？」については、Aは「はい」と答え、Bは「いいえ」と答えた。最後に「社会に出てからも、大学のときのように、なんらかの心強い支援機関や組織があるといいと思いますか？」については、両者とも支援体制や組織が必要だと答えた。

4.2. 健常者へのアンケート

本調査の回答者は15名のベトナムの大学生（ベトナム師範大学市師範大学8名、ホーチミン市農林大学3名、ホーチミン市工業大学2名、サイゴン大学1名、ホーチミン市医学大学1名）と三重大学の大学生15名である。以下、アンケートへの質問事項にしたがって、結果を示す。

4.2.1. 健常者の大学生は障害者（特に視覚障害者）にどのぐらい関心を持っているのか

①「あなたの周りに、視覚障害者がいますか？」

「あなたの周りに、視覚障害者がいますか？」という質問については、「います」と答えたベトナム人の大学生は60%（9名）を占めている。それに対して、「います」と答えた日本人の大学生は僅か7%（1名）を占めている。

②「その視覚障害者は、どんな支援を望んでいるか、あなたは知っていますか？」

表1は、①の質問に「います」と答えた回答者の結果である。日本人の回答者は「ある程度知っています」と答えたのに対して、ベトナム人の大学生の中に、「あまり知りません」と答えた人は多く、67%を占めており、「全然知りません」と答えた人は2位で22%を占めていた。

表1. その視覚障害者は、どんな支援を望んでいるか、あなたは知っていますか？

	日本人の大学生	ベトナム人の大学生
よく知っています。	0%	0%
ある程度知っています。	100%	11%
あまり知りません。	0%	67%
全然知りません。	0%	22%

③「障害者が困っているとき、あなたは助けてあげていますか？」

「障害者が困っているとき、あなたは助けてあげていますか？」との質問については、ベトナム人の大学生の中、「いいえ」と答えた大学生は40%を占め、日本人学生は67%の学生が「はい」と答えた。質問の①、②のデータから、日本人の大学生に比べると、ベトナム人の大学生は周りの障害者の状況について関心がなく、障害者への支援もしようと思わないということがわかった。

以上のデータから、ベトナム人の大学生は周りに視覚障害者がいるが、あまり障害者への支援に関心がないということが分かった。

4.2.2. 視覚障害者の支援とその法律について、知っていますか？

① 「具体的な支援について知っていますか？」

表2のように、視覚障害者の支援について、両方の国のほとんどの回答者は点訳・墨訳（すみやく）を知っていた。ベトナム人の大学生はリーディングサービス、ガイドヘルプ、教材のテキストデータ化、ノートテイク、試験時間延長・別室受験などの支援を知っていた。一方、日本人の大学生はビデオ教材字幕付け・文字起こし、読み上げソフト・音声認識ソフト使用、教材の拡大、リーディングサービ、ガイドヘルプ、専用机・イス・スペース確保などの支援についても知っていた。

表 2. 大学が行っている視覚障害者への支援について知っていますか？

	日本の大学生	ベトナムの大学生
点訳・墨訳	11	15
教材のテキストデータ化	4	6
教材の拡大	6	4
ガイドヘルプ	5	9
リーディングサービス	6	10
ノートテイク	2	6
パソコンテイク	4	5
ビデオ教材字幕付け・文字起こし	8	3
チューターまたはティーチング・アシスタントの活用	4	5
試験時間延長・別室受験	3	6
解答方法配慮	4	6
パソコンの持込使用許可	3	2
注意事項等文書伝達	1	3
使用教室配慮	3	5
実技・実習配慮	2	3
教室内座席配慮	3	3
専用机・イス・スペース確保	5	3
読み上げソフト・音声認識ソフト使用	7	5
講義に関する配慮	3	5
配慮依頼文書の配付	1	3
出席に関する配慮	1	4
学習指導	1	3
授業内容の代替、提出期限延長等	1	2
履修支援	1	5
学外実習・フィールドワーク配慮	1	5

② 「以上の支援は、どうやって知りましたか？」

ベトナム人の回答者は全員は SNS/テレビ/新聞から支援の情報を受けた結果に対して、日本人の大学生は SNS/テレビ/新聞以外、15%の回答者は授業から支援の情報を受けた。また、両国の回答者は「大学からの通知」と答えた人はいなかった。これは、ベトナムも日本も、大学側は障害者の支援内容と状況について、両者は、大学からの情報はなく、SNS や授業の内容から支

援情報を得ていた。

表 3. どこで知りましたか？

	日本人の大学生	ベトナム人の大学生
大学からの通知	0%	0%
授業	15%	0%
SNS／テレビ／新聞	85%	100%

③ 「自分の国の障害者に関する法律を知っていますか？」

「自分の国の障害者に関する法律を知っていますか？」を尋ねた結果、ベトナム人の大学生は全て SNS／テレビ／新聞から法律の情報を受けた。それに対し、日本人の大学生が授業から法律の情報を受けた割合は 50%に達した。

表 4 は「自分の国の障害者に関する法律について知っているか」という質問の結果である。ベトナムも日本も「いいえ」と答えた人は「はい」と答えた人を上回った。しかし、日本の障害者に関する法律について、知らないと答えた日本人は、ベトナムより高かった。

表 4. 自分の国の障害者に関する法律についての認知

	ベトナム人の大学生	日本人の大学生
SNS／テレビ／新聞	100%	50%
授業	0%	50%
大学からの通知	0%	0%

表 3 と表 4 から、日本の大学の授業は、ベトナム人の大学生より障害者に関する情報の提供が行われていることがわかった。

4.2.3. 健常者の障害者の支援についての考え

① 「あなたの大学は、視覚障害者の支援が十分だと思いますか？」

「あなたの大学は、視覚障害者の支援が十分だと思いますか？」について、両国の回答者の最も多い答えは「普通だと思います。」であり、50%以上を占めていた。次に、「不十分だと思います。」の答えはそれぞれ 40%を占めていた。

② 「どんな支援があったら、いいですか。」

表 5 に示したように、多くのベトナム人の大学生は、点訳・墨訳、解答方法配慮、履修支援、試験時間延長・別室受験、リーディングサービスなどの支援があったらいいと思うと答えた。日本人の回答者については、最も多くの答えはリーディングサービス、講義に関する配慮、チューターまたはティーチング・アシスタントの活用、教材のテキストデータ化、ガイドヘルプである。

表 5. 今後大学の中でどんな支援があったら、いいと思いますか。

	日本の大学生	ベトナムの大学生
点訳・墨訳	13	5

教材のテキストデータ化	8	8
教材の拡大	4	6
ガイドヘルプ	6	8
リーディングサービス	9	7
ノートティク	0	3
パソコンティク	0	5
ビデオ教材字幕付け・文字起こし	8	5
チューターまたはティーチング・アシスタントの活用	8	7
試験時間延長・別室受験	9	3
解答方法配慮	11	5
パソコンの持込使用許可	7	4
注意事項等文書伝達	8	3
使用教室配慮	5	4
実技・実習配慮	6	3
教室内座席配慮	6	4
専用机・イス・スペース確保	5	2
読み上げソフト・音声認識ソフト使用	8	6
講義に関する配慮	8	7
配慮依頼文書の配付	5	1
出席に関する配慮	6	2
学習指導	8	5
授業内容の代替、提出期限延長等	5	2
履修支援	10	3
学外実習・フィールドワーク配慮	6	4

②「大学での障害者支援のように、社会においてもなんらかの心強い支援機関や組織があると思いますか？」

「大学での障害者支援のように、社会においてもなんらかの心強い支援機関や組織があると思いますか？」については、全てのベトナム人大学生の回答者が「はい」と答えた。それに対して、日本人の回答者には、「いいえ」と答えた人が27%を占めていた。

4.3. 両大学の施設課からの回答

調査を行ったベトナムの大学（ホーチミン市師範大学）の教員によれば、現在障害がある大学生に奨学金制度はあるが、特別な支援センターや組織はないとのことだった。

一方、調査を行った日本の大学（三重大学）では、2013年度に障害のある学生への支援に特化した「障がい学生支援室」（現在、障害学生支援センター）が設置された。また、視覚障害者の大

学生に特化した委員会はないが、2018年から、視覚障害に限らず、三重大学における障害等のある学生の支援の調整や情報共有、支援のあり方を企画・立案する組織として、「障害学生支援調整会議」が組織されている。さらに、視覚障害者／障害者を支援する計画については、2021年から視覚障害者に限らず、障害全般に対する支援計画がある。例えば、障害学生支援センターでは、「ATライブラリー」と称して様々な支援機器を揃えていて、その中には視覚障害を支援する機器（iPadやノートパソコン等）もあり、今後も支援機器の充実に取り組んでいく計画があるということである。

以上のように、視覚障害者について、ベトナムは障害者自身も支援が乏しいと感じつつ、視覚障害者向けの特別な組織はないにもかかわらず、大学の健常者からの協力が熱心に行われていた。それに対して、三重大学では組織もあり、具体的な支援政策があることがわかった。

5. 考察

本研究の結果、障害者への注目度が両国で異なっていることがわかった。

まず、日本の大学では障害者への接し方の指導が授業内で行われているため（15%）、障害者支援への理解度が高い結果だった。それに対して、ベトナムは大学側がまだ障学生に対する指導や情報提供が十分ではなく、ベトナム人の大学生（健常者）の障害者への理解度が低いことがわかった。

次に、両国の大学の提供している支援内容が異なっているということが明らかになった。教育支援機器についてみると、日本の方が障害者向けの支援設備が多く使われていた。この理由は、両国の対策が異なっていることが考えられる。

さらに、日本の大学では、障害がある大学生向けの特別な組織があり、今後の支援計画も立てられていた。一方、ベトナム大学には、このような支援体制や対策は行われておらず、日本より遅れていることがわかった。

以上、アンケートの結果から、現在の技術の発展のおかげで、ベトナム人の視覚障害者は特別な支援を得ずに自分で大学生活が過ごせるようにはなっているが、今後も障害者への支援体制をより改善していく必要がある。また、支援のあり方について、支援が順調に進むために、ベトナムの大学は障害者向けの組織を作る必要がある。支援計画の設定や障害のある大学生の申請を受け取る組織があれば、障害のある大学生の意見に基づいて支援計画をしたら、ベトナムの大学での支援がもっと発展できると考えられる。

最後に、先行研究の Nguyễn Tuấn Anh (ハノイ外国語大学) による「Essentials for an inclusive tertiary education for visually impaired students」(2020) が、視覚障害者の教育には、技術の助け、先生の助けとカリキュラムと評価方法の検討が必要だと指摘していたが、本調査における日本の大学とベトナムの大学の提供した支援結果から見ると、更なる支援体制として障害者／視覚障害者専用の支援センターや組織を作るべきだと考える。また、両大学のアンケートの結果から障害者支援の

法律についての知識が乏しいことが分かったため、大学で講義や宣伝などを行って支援情報を明確に提供ができれば、障害者への理解度を深め、大学における支援のあり方が改善されていくと思われる。

6. 今後の課題

ベトナムの大学は日本の大学ほど、支援状況や障害者への関心度が低いということが分かったため、ベトナムの大学ができる支援体制の改善策についてより具体的に検討していきたい。また、ベトナム人大学生より日本人大学生の方が障害者／視覚障害者の支援状況への関心度が高いが、高いと言えないため、両国の大学生の関心度をもっと効果的な高め方についても検討していきたい。

注

1. 視覚障害学生実態調査報告書（2015）による。
2. アンケートの中に、ベトナムの視覚障害学生を対象とした学修環境に関する実態調査（2013）による支援方法を参考した。

参考文献

日本語

- 1) 外務省（2023）「障害者の権利に関する条約（略称：障害者権利条約）」『外務省ホームページ』（https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html）2023年2月13日閲覧。
- 2) 厚生労働省（2005）「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」『厚生労働省ホームページ』（https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=83aa7574&dataType=0&pageNo=1）2023年2月13日閲覧。
- 3) 全国盲学校長会大学進学支援委員会（2015）「視覚障害学生実態調査報告書」（<https://www.nsfb.tsukuba.ac.jp/furen/jitsutai2015.pdf>）2023年2月13日閲覧。
- 4) 内閣府（2013）「障害者基本法」（<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonhou/s45-84.html>）2023年10月20日閲覧。
- 5) 内閣府（2013）「障害を理由とする差別の解消の推進」『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』（https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/law_h25-65.html）2023年2月13日閲覧。
- 6) 日本学生支援機構『障害のある学生への支援・配慮事例』（https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_hairyo_jirei/index.html）2023年6月22日閲覧。
- 7) 宮城愛美、王鑫、香田泰子（2021）「ベトナムの視覚障害学生を対象とした学修環境に関する実態調査」『Journal of Inclusive Education』10, pp17-28.

ベトナム語

- 1) Bộ giáo dục và đào tạo (ベトナム教育訓練省の通知) (2013). *Thông tư liên tịch quy định chính sách về giáo dục đối với*

người khuyết tật.

2) Hương Ngọc (13/11/2022). *Gian nan người khiếm thị trên giảng đường*. Báo Pháp Luật. <https://baophapluat.vn/gian-nan-nguoi-khiem-thi-tren-giang-duong-post458338.html>, 13/2/2023

3) Nguyễn Tuấn Anh (2020). *Những yếu tố cần thiết để phát triển giáo dục hòa nhập đại học cho người khiếm thị tại trường ĐHNN – ĐHQGHN*. Nghiên cứu và giảng dạy ngoại ngữ, ngôn ngữ & quốc tế học tại Việt Nam. 30-36.

4) Quốc hội (国会) (2010). *Luật người khuyết tật*. (ベトナム障害者法律)

5) Tổng cục thống kê (統計総局) (2016). *Điều tra quốc gia người khuyết tật Việt Nam*. 89

英語

1) Kendall, L. (2016). Higher education and disability: Exploring student experiences. *Cogent Education* 3 (1), 1–12.

2) Sniatecki, J. L., Perry, H. B., & Snell, L. H. (2015). Faculty attitudes and knowledge regarding college students with disabilities. *Journal of Postsecondary Education and Disability*, 28(3), 259–275.

<要約>

Nghiên cứu này nhằm tìm ra nguyên nhân các biện pháp hỗ trợ cho sinh viên khuyết tật ở các trường đại học tại Việt Nam không phát triển, đồng thời thể hiện tình hình hỗ trợ dành cho sinh viên khuyết tật tại các trường đại học Việt Nam hiện tại. Ngoài ra, nghiên cứu còn nhằm tìm hiểu các thức hỗ trợ phù hợp dành cho sinh viên khiếm thị tại đại học Việt Nam. Các thông tin phục vụ cho nghiên cứu được thu thập bằng biểu mẫu câu hỏi. Những đối tượng trả lời biểu mẫu bao gồm: 01 sinh viên khiếm thị tại Đại học Sư Phạm Thành phố Hồ Chí Minh (sinh viên suy giảm thị lực), 01 sinh viên khiếm thị tại Đại học Mie (sinh viên suy giảm thị lực), 15 sinh viên Việt Nam, 15 sinh viên Nhật Bản, phòng CTCT&HSSV Đại học Sư Phạm Thành phố Hồ Chí Minh, Trung tâm hỗ trợ sinh viên khuyết tật Trường Đại học Mie.

Kết quả thu thập được cho thấy mức độ quan tâm dành cho sinh viên khuyết tật ở Việt Nam và Nhật Bản khác nhau. Trước hết, sinh viên Việt Nam có mức độ hiểu biết về người khuyết tật chưa cao. Thêm vào đó, nội dung hỗ trợ dành cho sinh viên khiếm thị ở hai nước cũng khác nhau. Cuối cùng, so với Nhật Bản đã có chế độ đặc biệt dành cho sinh viên khiếm thị tại trường đại học, các trường đại học Việt Nam chưa có chế độ hỗ trợ đặc biệt này. Trong tương lai, người thực hiện nghiên cứu cho rằng các trường đại học Việt Nam cần cải thiện chế độ hỗ trợ cho sinh viên khuyết tật. Ngoài ra, người thực hiện nghiên cứu mong rằng các đề tài như: cách thức cải thiện chế độ hỗ trợ tại các trường đại học Việt Nam, phương pháp nâng cao mức độ quan tâm của sinh viên đối với những hỗ trợ dành cho người khuyết tật có thể được xem xét trong tương lai.

Từ khóa : Sinh viên khuyết tật, Sinh viên khiếm thị, Hỗ trợ học tập, Hỗ trợ sinh viên, Thiết bị hỗ trợ, Khảo sát sinh viên

日本の歌舞伎文化の展望

—滝沢歌舞伎を例に—

ファディラ・ザーラ・サアディア

The Prospect of Japan's Kabuki Culture

—A Questionnaire-based Study with Takizawa Kabuki—

Fadhila Zahra Saadiya

<要旨>

本研究の目的は、現在の若者への歌舞伎に対する興味度を調べるとともに、若者が、歌舞伎を取り入れたエンターテインメント「滝沢歌舞伎」をきっかけに歌舞伎に興味を持つ可能性を探ることである。伝統歌舞伎の観劇履歴および滝沢歌舞伎を観覧した後の歌舞伎に対する興味度を質問項目とするアンケート調査を107人の15歳から34歳までの日本人および外国人に対して実施し、調査結果を分析した。その結果、多くの若者は伝統的な歌舞伎に興味を持っているが、歌舞伎を見に行く機会がないため、歌舞伎を見たことがないということがわかった。また、歌舞伎を組み入れた作品の一つとして、「滝沢歌舞伎」は完全なる伝統的な歌舞伎ではないとしても、若者の伝統的な歌舞伎への興味を招く可能性が高く、歌舞伎初心者でも外国人でも楽しめるような「歌舞伎」の作品として考えられることが分かった。

キーワード： 伝統芸能、歌舞伎、滝沢歌舞伎、若者、外国人

1. はじめに

江戸時代に始まる歌舞伎は、能、狂言、そして文楽と並び日本の四大演劇の一つで、400年以上の歴史を持つ日本特有の演劇である。芸能名として、「かぶき」という言葉は、奇抜に身なりをする、常軌を逸して勝手に振る舞うことを意味する動詞の「傾く（かぶく）」から由来すると言われている（松竹株式会社2008）。当時、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、こうした派手な格好をし、世間の秩序に反して行動する人々は「傾奇者（かぶきもの）」と呼ばれ、1603年に出雲の阿国と横倣者がやっていた舞踊や軽演劇を「かぶき」として言うようになった（日本芸術文化振興会2019）。歌舞伎の漢字は、「歌」、「舞」、そして「技（伎）」の漢字を、「かぶき」の言葉に当てたものであ

る（松竹株式会社2008）。この言葉の組み合わせ通り、歌舞伎は歌（音楽）、舞（舞踊・踊り）、そして演技（芝居）という三つの要素から構成されているのである。

しかし、日本の四大演劇でありながらも、時代が変化し、新しいエンターテインメントの形が登場するに連れて、歌舞伎は徐々に衰退を迎えていると言われている。変わっていく時代の中で歌舞伎も進化し続け、現代的な演出を組み入れて、伝統芸能から離れていく風潮にある若者から注目を集めるようとしている。

上記の現状を踏まえ、本論では、現在の若者の間の歌舞伎についての興味の程度を調べるとともに、現代的な演出を取り入れた新しい形の「滝沢歌舞伎」を例に、伝統芸能である歌舞伎が若者の人気を得る可能性を探る。

2. 研究の背景

2. 1. 歌舞伎の誕生と発展

歌舞伎は、1603年の春、江戸時代の初め頃、出雲大社の巫女、出雲阿国（いずものおくに）という女性が京都のまちに躍り出たことによって始まり、この踊りは「念仏踊（ねんぶつすおどり）」と称していた（松竹株式会社2008）。この奇抜な格好でおかしなことをする傾き者（かぶきもの）と呼ばれる者たちの、扮装やしぐさを取り入れた踊りは、後で「阿国かぶき」、あるいは「かぶきおどり」と呼ばれていた。男装をして茶屋で女性と遊び戯れる様子を、歌や踊りで描くその芸能は、庶民だけでなく武士や貴族の心をとらえた（松竹株式会社2008）。

「かぶきおどり」が人気になったおかげで、他の女性芸能集団、例えば遊女たちも、次々とこの踊りを真似た。新しい楽器であった三味線も取り入れて演じられたこれらの女性たちによる踊りを「女歌舞伎」と言う（松竹株式会社2008）。しかし、この女歌舞伎は、風紀上の弊害を起し、江戸幕府は女性が舞台に立つと風俗が乱れるという理由で禁令を出し、女性の代わりに、美少年、若い男子による歌舞伎が演じられた。こうした「若衆歌舞伎」が人々の心を掴んだが、女装した美少年たちもまた風紀を招くとみなされ、歌舞伎は再び禁止された（松竹株式会社2008）。1635年、少年ではなく成人男性が演じるという名目で、歌舞伎の禁令が解かれたが、それには二つの条件が課された。それは、役者たちの前髪を切り、チョンマゲで演じること、そして歌舞を控えて「物まね狂言づくし」にすることであった。当時、「チョンマゲ」は「野郎頭（やろうあたま）」と言ったことから、この新しい歌舞伎は、「野郎歌舞伎」と呼ばれるようになった（松竹株式会社2008）。内容的にも、野郎歌舞伎は歌舞（歌と踊り）を中心とするものから、複数の場面で構成された演劇的なものへ発展した。これにより、演者たちもより高い技能を持たなければならなくなった。また、若衆歌舞伎の頃から始まった、女性に扮して登場する「女方（おんながた）」（元禄以降は女形と書く）という男性の俳優の役割も確立された。そして、筋立てが複雑になる中、女方は若い女性役や年配の女性役といった具

合に、またそのほかの登場人物も善人の男性役や悪人の男性役、雰囲気や和ませる滑稽な役といった具合に多様化しながら、いくつかの代表的な役柄へと類型化されていった。こうして歌舞伎は、演劇としての性格を強めることで、舞台芸術として発展したのである（日本芸術文化振興会 2019）。

2. 2. 歌舞伎の衰退

昭和に入り、映画やテレビなどのデジタルエンターテインメントの影響を受け、歌舞伎のような伝統芸能は衰退を迎えた。その衰退の表れとして、具体的には、観客の高齢化と歌舞伎の担い手の人材不足が挙げられる。内閣府政府広報室（2003）が全国 20 歳以上の者（3000 人）を対象に行った「文化に対する世論調査」では、歌舞伎、文楽や民俗芸能（民謡、神楽、祭礼行事等）などの伝統芸能にどの程度関心があるか聞いたところ、「関心がある」とする者の割合が 49.8%（「非常に関心がある」10.5%+「ある程度関心がある」39.3%）、「関心がない」とする者の割合が 49.6%（「あまり関心がない」34.4%+「全く関心がない」15.1%）となった。年齢別に見ると、「関心がある」と答えた人は 50 歳代から 70 歳以上の割合が高くなっており、「関心がない」と答えた人は 20 歳代や 30 歳代の割合が高くなっているという結果であった。さらに、奈良部（2010）も、歌舞伎の劇場に通っているのは伝統文化に関心の高いシニア世代であることを指摘している。また、マイナビ（2016）による大学生男女 402 人に対する調査からは、歌舞伎を見たことがある人はわずかの 36 人（21.4%）であり、そして残りの 316 人（78.6%）、つまり約 8 割は、まだ歌舞伎を見たことないということが分かった。見たことがある人は、「チケットをもらったから」、「学校行事で行ったから」、「授業で見たから」、そして「親に連れて行かれた」などの理由の上で歌舞伎を見たと答えた。こうした理由はどれも、若者が自ら歌舞伎に興味を持って見たものではない。一方、見たことない人は、「値段が高いから」、「内容が難しそう、つまらない、寝てしまいそうだから」、「敷居が高い感じがするから」などの理由で、歌舞伎をまだ見たことがないという結果が報告されている。こうした結果から、若者の多くが歌舞伎を見ないのは明らかである。若者の多くの中には、「歌舞伎のチケットは高いし、日本語を喋ってるのに内容が全然理解できない」という印象が強くと推察される。

こうした若者の歌舞伎離れに伴い、歌舞伎業界にて問題になっているものの一つは歌舞伎の担い手不足である。永山（2014）によると、年々歌舞伎の弟子の数が減少している。その理由は、経済成長に乗じて利益を上げる一般企業に反して、歌舞伎の修行は高収入を期待できるものではないということが挙げられる。また、歌舞伎は高度な特殊専門技術を必要とするものであり、人材育成は一般的に世襲性（親から子に伝えられるシステム）であるため、広く世間の人々に歌舞伎の世界への転職を求めるものでもないという。

2. 3. 新しい歌舞伎

歌舞伎への若者からの注目を取り戻すため、歌舞伎業界はポップカルチャーと組み合わせた若者向けの新作歌舞伎や歌舞伎組み入れた作品を作り、歌舞伎の衰退を防ぐことを取り組んでいる。例え

ば、スーパー歌舞伎、コクーン歌舞伎などがそれにあたる。阪部（2008）は、歌舞伎を好む観客は世代交代（歌舞伎が好きな親の子供が歌舞伎を好きになる）が多いと述べたが、その一方で斬新さを売りにしたコクーン歌舞伎・平成中村座や、大胆に路線変換した正月の浅草歌舞伎を見た若者たちも多いということを指摘した。

2. 3. 1. 滝沢歌舞伎

新しい歌舞伎の中には、歌舞伎業界の外で生まれたものもある。その中で、現在、人気を得ているものの一つが「滝沢歌舞伎」である。滝沢歌舞伎は、ジャニーズ事務所（当時）の滝沢秀明による和に特化したエンターテインメントである（松竹衣装 n.d.）。滝沢歌舞伎は2部、または3部で構成されており、様々な演目がオムニバス形式で展開されているという作品になっている。歌舞伎はもちろん、歌やダンス、コメディの時代劇風の劇をしたり腹筋しながら太鼓を演奏したりするエンターテインメントショーのようなものである。

滝沢歌舞伎のルーツは、2006年3月に新橋演舞場で初演された滝沢秀明主演の時代劇 LIVE ミュージカル「滝沢演舞城（たきざわえんぶじょ）」である（松竹2006）。2010年、歌舞伎座改築工事とともに、場所を日生劇場へと移動した（日刊スポーツ2010）。他にも、出演者を男性だけに限定することや（本木2010）、歌舞伎の要素を多く含む内容へ変更し（スポーツ報知2010）、タイトルも「滝沢歌舞伎」に変更した（日刊スポーツ2010）。そこからは、毎年滝沢歌舞伎の公演が行われ、2015年はシンガポールのマリーナ・ベイ・サンズグランドシアターでも上演された（DAILYSPORTS ONLINE 2015）。2019年、座長は滝沢秀明から Snow Man に受け継がれ、「滝沢歌舞伎」から「滝沢歌舞伎 ZERO」に生まれ変わった（松竹2019）。2020年には、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、公演を行わないことになったが、その代わりに映画「滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie」が公開された。2021年、滝沢歌舞伎 ZERO はまた舞台に戻ったが、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言で途中から公演を中止し、生配信という形で上演された（モデルプレス2021）。そして2022年、4月から5月にかけてもう一度新橋演舞場で公演が行われた（松竹2022）。

この滝沢歌舞伎シリーズは、日本人が親しみのある、そして海外でも人気のジャニーズ事務所のタレントたちによって演じられる作品になっている。演じられている演目も、普通の歌舞伎にはないアクロバットやダンスも含まれている。歌舞伎を演じる部分では、本来台詞なしで（または少なめに）演じられ、誰でも楽しめるパフォーマンスになっている。伝統芸能としての「歌舞伎」以外に「洋」や「アイドルパフォーマンス」の要素を組み入れることにより「歌舞伎ではなくなるのではないか」という声もあるが、「歌舞伎」とは「歌」、「舞」、そして「技」を見せるものという原則に鑑みると、この滝沢歌舞伎も同じ意味合いで「歌舞伎」とも言えるだろう。

滝沢歌舞伎は、「スーパー歌舞伎」のようなもので、伝統芸能としての歌舞伎はもちろん、その他にも様々な新しい要素が取り入れられている。歌舞伎と言えば、やはり派手で目立つと同時に美しさと意味深さが詰め込まれている隈取の化粧が有名である。滝沢歌舞伎にも隈取が見られる。では、何が違うかという、滝沢歌舞伎には「生化粧」という演出がある。公演中、主役が1秒でも不在にならないように、舞台の上で白塗りや隈取のメイクをメイクアップアーティストではなく、ゼロから役者たちがやることになっている。この前代未聞の演出は、歌舞伎役者からも高い評価を受け、滝沢歌舞伎の魅力の一つになっている。他にも、最も有名な演目の一つと言っても過言ではない演目である五右衛門ZEROがある。この演目は、歌舞伎でも人気のある石川五右衛門の話について演じられている演目である。この演目では、歌舞伎の特色である「見得」や、「柄（き）」を鳴らす「ツケ打ち」が演出の一つになり、最も「歌舞伎」らしさを体験できる演目の一つである。また、この演目ならではの魅力は「刀投げ」という演出である。隈取をしない現代感のある演目にも、所々に歌舞伎で使われる演出が取り入れられ、例えば「戸板倒し」なども見られる。

滝沢歌舞伎が目指しているのは、「観客を選ばない、誰でも楽しめる舞台」である。言葉が分からなくても、知識がなくても、「歌舞伎」を楽しめるというものである。子供や外国人でも和の世界を楽しめる舞台を目指し、ファミリー向けの特別公演を作ったり、シンガポール公演に英語の字幕を入れたり、または耳の聞こえない人にも伝わるように手話を取り入れることなど、より万人向けの「歌舞伎」を目指している。さらに、映画化もされたことにより、DVD や配信サイトなどを通じていつでもどこでも見られるものになっている。

2. 4. 本研究の目的

上に説明した滝沢歌舞伎が目指すものは、歌舞伎の衰退を食い止めるための大きなヒントを示しているかもしれない。現在、伝統的な歌舞伎は主に高齢者が見るものとなっている。そして若者の人気を得るために、次々と新しい形の歌舞伎が生み出されていることは前述のとおりである。そして滝沢歌舞伎は若者に限らず、子どもや外国人、そして視力障害者にまでその人気を広げようとしている。こうした姿勢は、歌舞伎に対する偏見を変えるだけでなく、歌舞伎をもっと簡単に、もっとアクセシブルに、初めて見る人も楽しめるような形に変える可能性がある。こうした新しい観客層を得ることで、伝統的な歌舞伎に対する興味も掘り起こされ、新しい歌舞伎と伝統的な歌舞伎がともに広く大衆文化として再び盛り上がる可能性がある。

以上の議論を踏まえた上で、本研究は、特に若者を調査対象として、滝沢歌舞伎が、外国人を含む若者の歌舞伎に対する興味を引く可能性を調査する。具体的には、若者や外国人がどの程度歌舞伎を見たことがあるかを調べた上で、そして日本の伝統的な歌舞伎に若い世代の人たちの興味をひく手段の一つとして、滝沢歌舞伎がどのような影響を与えることができるのかを探る。

3. 調査

3. 1. 調査協力者

本研究で実施したアンケート調査に協力したのは15歳から34歳の日本人及び外国人の合計107人（男性26人・女性78人・その他3人）である。協力者の年齢を15歳から34歳に区切ったのは、内閣府（2022）の『令和4年版子供・若者白書』の「各種法令による子供・若者の年齢区分」の項目で「青少年」とされている区切りに従った。その他、本研究の協力者の詳細は以下の通りである。

表1 調査協力者の年代

年代	割合	人数
10代後半	52.3%	56人
20代前半	29.9%	32人
20代後半	1.9%	2人
30代前半	1.9%	2人

表2 調査協力者の国籍

国籍（国名）	割合	人数
日本	52.3%	56人
インドネシア	29.9%	32人
フランス	1.9%	2人
中国	1.9%	2人
台湾	1.9%	2人
ベトナム	1.9%	2人
シンガポール	1.9%	2人
スペイン	1.9%	2人
ドイツ	0.9%	1人
韓国	0.9%	1人
マレーシア	0.9%	1人
フィリピン	0.9%	1人
コロンビア	0.9%	1人
モンゴル	0.9%	1人
無回答（東南アジア）	0.9%	1人

表3 調査協力者の居住地

国籍（国名）	割合	人数
三重県	50.5%	54人
愛知県	7.5%	8人
東京都	0.9%	1人
奈良県	0.9%	1人
静岡県	0.9%	1人
秋田県	0.9%	1人
インドネシア	29%	31人
シンガポール	1.9%	2人
アメリカ合衆国	0.9%	1人
カナダ	0.9%	1人
コロンビア	0.9%	1人
フランス	0.9%	1人
ドイツ	0.9%	1人
マレーシア	0.9%	1人
フィリピン	0.9%	1人
無回答（東南アジア）	0.9%	1人

3. 2. 調査方法

調査協力者に対し、Google フォームを利用し、アンケート調査を実施した。アンケートで聞いた質

問は、大きく分けて、①伝統的な歌舞伎についての質問、②滝沢歌舞伎についての質問、③滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への興味を招くかについての質問の三つに分けられる。このうち、①伝統的な歌舞伎についての質問（3問）」では、調査協力者が伝統的な歌舞伎を見たことがあるか、また見たことがない理由などを聞いた。また、②滝沢歌舞伎についての質問（2問）では、調査協力者の滝沢歌舞伎についての知識、例えば滝沢歌舞伎を知っているか、どのように滝沢歌舞伎を知ったかなどについて聞いた。また、ここでは、滝沢歌舞伎を見たことがない人のために、滝沢歌舞伎の短い動画をアンケートの中で見せた。最後に、③滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への興味を招くかについての質問（4問）では、滝沢歌舞伎を見て伝統的な歌舞伎に興味があったか、また滝沢歌舞伎は伝統的な歌舞伎に共通するところがあると思うかどうかなどを聞いた。

次章以降、アンケート調査の結果を質問ごとに報告する。

4. 結果

4. 1. 伝統的な歌舞伎について

ここでは、伝統的な歌舞伎についての調査協力者の経験や知識を聞いた三つの質問とその回答を報告する。

表4 質問「伝統的な歌舞伎を見たことがありますか。（DVDや配信も含めて）」の結果（n:107）

回答	回答数
見たことがある	52 (48.6%)
見たことがない	55 (51.4%)

表5 質問「伝統的な歌舞伎を見たことがない人に質問します。どうして今まで伝統的な歌舞伎を見なかったのですか。」の結果（n:55）

回答	回答数	回答例
興味がないから	16 (29.1%)	-
興味はあるが、機会がなかったから	37 (67.3%)	-
その他	2 (3.6%)	<ul style="list-style-type: none"> • 見ても理解できないだろうから（日本人女性、22歳） • 歌舞伎を見に行くことはとても高価な娯楽というイメージがあるからです。また、「友人（若者）と話題を共有できないことも理由の一つだと思います。（日本人男性、24歳）

表6 質問「伝統的な歌舞伎に興味がない人に質問します。どうして興味がないのですか。」の結果（n:18）

回答	回答数	回答例
歌舞伎で役者が話す（昔の言葉）が理解できないから	16 (29.1%)	-
実際に見に行くと料金が高いから	37 (67.3%)	-
その他	2 (3.6%)	<ul style="list-style-type: none"> あまり馴染みがないから（日本人男性、20代前半） 身近なものでないから（日本人女性、19歳） 歌舞伎に触れる機会がそもそもなかったから（日本人男性、22歳） 他のことに興味があるから（日本人女性、20歳） 同じテーマを扱っている場合、言葉以外にも、テンポや時間などの点を考えても、テレビ番組や映画の方が見やすいと思うから（日本人女性、23歳） 近くに見れる場所がなく、見る機会がなかったから（日本人女性、19歳） そもそも日本語が話せないから（インドネシア人女性、30歳）

これらの質問の結果から、まず、意外にも伝統的な歌舞伎を見たことがある人とない人は同数程度など言うことが分かる。見たことがない人に対してその理由を聞くと、これまで機会がなかったという理由が67.3%と最も多く、興味がないという人は29.1%にとどまった。興味がないと回答した人に対してその理由を聞くと、料金が安いという理由が7割弱、そして歌舞伎で話される言葉が理解できないという理由が3割弱であった。

4. 2. 滝沢歌舞伎について

次に、滝沢歌舞伎についての調査協力者の経験や知識を聞いた二つの質問とその回答を報告する。

表7 質問「ジャニーズ事務所（当時）の滝沢秀明さんが中心となって始めた滝沢歌舞伎」というシヨールがあります。滝沢歌舞伎を見たり聞いたりしたことがありますか。（DVDや配信も含めて）」の結果（n:107）

回答	回答数
見たことがある	39 (36.4%)
見たことはないが「滝沢歌舞伎」というものがあると聞いたことがある	42 (39.3%)
見たことはないし、聞いたこともない	26 (24.3%)

表8 質問「滝沢歌舞伎を見たり聞いたりしたことがある人に質問します。滝沢歌舞伎をどのように知りましたか。」の結果 (n:77)

回答	回答数	回答例
ジャニーズ（または滝沢秀明）に興味があったから	53 (68.3%)	-
伝統的な歌舞伎に興味があったから	6 (7.8%)	-
その他	18 (23.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ● 知り合い・身の回りの人から聞いた (2人) ● 知り合い・身の回りの人が観劇 (2人) ● テレビ番組・ニュース・CM・SNS から聞いた (10人) ● テレビで放送された (1人) ● 受業の中でビデオを見た (1人) ● いつの間にか知っていた (1人) ● 無回答 (1人)

これらの回答から、滝沢歌舞伎を見たことがある人は36.4%あり、また見たことがなくても聞いたことがある人も39.3%いるなど、滝沢歌舞伎の認知度は高いことが分かる。そして滝沢歌舞伎を知るきっかけとなったのは、その68.3%がジャニーズ（または滝沢秀明）に興味があったからであることが分かる。

4. 3. 滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への興味を招くかについて

ここでは、滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への興味を招くかについて聞いた質問とその回答を報告する。これらの質問が、本研究の最も重要な部分である。なお、最後の質問は自由回答であったため、協力者の回答を筆者が六つのカテゴリー（A～F）に区別して表に示す。

表9 質問「このアンケートをする前に、滝沢歌舞伎を見たことがあった人に質問します。滝沢歌舞伎を初めて見る前に、伝統的な歌舞伎を見たことがありましたか。」の結果 (n: 38)

回答	回答数
見たことがあった	25 (65.8%)
見たことがなかった	13 (34.2%)

表10 質問「滝沢歌舞伎を初めて見る前に、伝統的な歌舞伎を見たことがなかった人に質問します。滝沢歌舞伎を見て、伝統的な歌舞伎に興味を沸かしましたか。」の結果 (n: 83)

回答	回答数
伝統的な歌舞伎に興味を沸かした	61 (73.5%)
伝統的な歌舞伎に興味を沸かかなかった	22 (26.5%)

表 11 質問「滝沢歌舞伎を初めて見る前に、伝統的な歌舞伎を見たことがなかった人に質問します。

滝沢歌舞伎を見た後、伝統的な歌舞伎を見ましたか。(DVDや配信も含めて)」の結果 (n:78)

回答	回答数
伝統的な歌舞伎に興味を見た	12 (15.4%)
まだ伝統的な歌舞伎を見ていないが、見る予定はある	22 (28.2%)
伝統的な歌舞伎を見ていない	44 (56.4%)

表 12 質問「滝沢歌舞伎は、伝統的な歌舞伎に共通するところがあると思いますか。それとも、伝統的な歌舞伎とは全然違うと思いますか。自由に考えを書いてください(記述式・自由回答)」の結果

回答	回答数	回答例
A: 共通するところはたくさんある。	29 (27.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 共通するところはあると思うし、歌舞伎の一つの形とも言える。衣装やメイクにまだ足りないところはあると思うが、全体的にとってもいい作品だと思う。さらに、日本の伝統的な音楽とポップミュージックの組み合わせがありその点でもっと興味深いものになったと思う。(20代前半インドネシア人女性、伝統的歌舞伎ファン、滝沢歌舞伎は今回初めて見た) 共通するものがあると思う。それぞれの場面でモチーフとなっているものが伝統的な日本のイメージだし、本当の歌舞伎のようなシーンがある。歌舞伎に疎い人でも、歌や踊りなどのコンサート要素があるため、歌舞伎に関する知識がなくても楽しめる。(20歳 日本人女性、ジャニーズファン、滝沢歌舞伎は今回初めて見た) 衣装や演目における決まりなどは、本来の歌舞伎と非常に近いと感じる。アイドルのパフォーマンスであるため、若い年代に向けて親しみやすい仕様になってはいるが、根本は伝統的な歌舞伎と同じように考えていいのではないかと思う。(20歳 日本人女性、ジャニーズファン、滝沢歌舞伎は前に見たことがある)
B: 詳しくはわからないが、共通点するところはあると思う。	11 (10.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な歌舞伎は見たことがないのでそこまで共通するところがあるかどうかは言えないが、歌舞伎の「初心者ガイド」としてはいいと思う。滝沢歌舞伎にはアイドルの曲みたいな現代的な演出も追加されたりするので100%伝統的な歌舞伎と一致するのは不可能だと思うが、それこそが自分みたいな若者には興味を持つ理由にもなった。普段から伝統芸能は見ないので、こうした現代的な部分のおかげで普通なら見ない伝統的な部分楽しめるようになった。(23歳 東京都在住ベトナム人女性、ジャニーズファン、滝沢歌舞伎は前に見たことがある) 伝統的な歌舞伎は見たことがないので詳しくは言えないが、いい作品だと思うし、滝沢歌舞伎を見た人はもっと歌舞伎を見たくなるし、もっと歌舞伎について知りたくなると思う。(32歳 インドネシア人女性、ジャニーズファン、滝沢歌舞伎は前に見たことがある)
C: 共通するところ	40	<ul style="list-style-type: none"> 滝沢歌舞伎は伝統的な歌舞伎に比べてもちろん違うところも

るはあるが、違うところもあり、同じとは言えない。	(37.4%)	<p>あるが、「歌舞伎」はどんなものなのかを紹介するにはいいと思う。伝統的な歌舞伎は話が重かったり、古い、詩?のような言葉を使ったりするが、滝沢歌舞伎はもっと簡単に歌舞伎を理解できるようなもので、現代化された歌舞伎だと思う。ミュージカルの味があるのも見やすいかな。滝沢歌舞伎はとても分かりやすいし色々楽しめるから歌舞伎に興味がある人は(特に外国人)、伝統的な歌舞伎を見る前に滝沢歌舞伎を見るのがおすすめ。個人的に、自分は伝統的な歌舞伎に興味があり伝統的な歌舞伎を見てから滝沢歌舞伎を見たが、初めて伝統的な歌舞伎を見た時は話の流れや言葉が凄く難しいと感じる。しかし、それぞれの良さがあり、どちらも好き。(30歳 インドネシア人女性、ジャニーズファン、滝沢歌舞伎は前に見たことがある)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現代的に見えるが、歌舞伎をベースにしている共通点はたくさんあると思う。江戸時代の歌舞伎も新しいものをたくさん取り入れて、観客が喜ぶものを作り上げてきたはずなので、そういう点でも共通していると思う。(33歳 日本人女性、伝統的歌舞伎ファン、滝沢歌舞伎は今回初めて見た)
D: 伝統的な歌舞伎とはほとんど別物。	14 (13.1%)	<ul style="list-style-type: none"> • 見た目こそ似ていると思われそうですが、先人が受け継いできた歌舞伎の思想だったりそこに込める思いというのは、全く別物であると考えます。新たな歌舞伎スタイルとして楽しむことに興味はありますが、別物として私は見てしまいます。(20代前半 日本人男性、一般、滝沢歌舞伎は前に見たことがある) • 本物の伝統的な歌舞伎とは違うものだと思いますが、歌舞伎を紹介するにはいいかもしれません。(26歳 インドネシア人女性、ジャニーズファン、滝沢歌舞伎は前に見たことがある)
E: 伝統的な歌舞伎とは全く別物で、共通するところはない。	9 (8.4%)	<ul style="list-style-type: none"> • 歌舞伎とは異なる要素が多く取り入れられているため違うものだと思う。(20歳 日本人女性、一般、滝沢歌舞伎は前に見たことある) • 全然違うと思う。(19歳 日本人女性、一般、滝沢歌舞伎は今回初めてみた)
F: 分からない・何も言えない	4 (3.7%)	<ul style="list-style-type: none"> • 分からないが、ある程度「歌舞伎」というものを見せていると思う。(20代前半 韓国人女性、一般、滝沢歌舞伎は初耳) • 伝統的な歌舞伎がどういうものなのかわからないため、なんともいえない。(19歳 日本人女性、ジャニーズファン、滝沢歌舞伎は今回初めて見た)

これらの質問への回答から、まず、滝沢歌舞伎を見る前に伝統的な歌舞伎を見たことがあった人は65%を超えており、意外にも多い。逆に、滝沢歌舞伎を見る前に伝統的な歌舞伎を見たことがなかった人は35%程度であったが、それらの人の7割以上が、滝沢歌舞伎を見た後伝統的な歌舞伎に興味を持ったと回答している。ただし、滝沢歌舞伎を見た後、実際に伝統的な歌舞伎を見たかという点、実際に見た人は15%程度であり、56%程度の人はまだ見ていない。最後に、滝沢歌舞伎は伝統的な

歌舞伎と共通するところがあると思うかという自由記述形式の質問については、様々な結果が得られた。しかし、滝沢歌舞伎と伝統的な歌舞伎は共通するところがあるという回答（A+B）が約37%を占め、共通するところがないという回答（D+F）が約21%であったことから、滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎と共通点があるという意見の方が優勢である。ただし、最も多かったのは中間的な回答（C）で、37%を占めた。

5. 考察（今後の展望を含む）

まず、①伝統的な歌舞伎について聞いた調査結果から、前述の通り、伝統的な歌舞伎を見たことがある人と見たことがない人の差は3人の差のみで、それほど大きくはないということが分かった。本アンケートに答えた時点で伝統的な歌舞伎を見たことがない人は、伝統的な歌舞伎を見たことない理由として「高価な娯楽のイメージ」や「言葉が分からない」という答えた人もあるが、「伝統的な歌舞伎に興味はあるが、機会がない」という回答が最も多かったことから、歌舞伎は調査協力者にとってまだアクセシブルなものになっていないということが考えられるだろう。

また、②滝沢歌舞伎についての質問からは、歌舞伎を取り入れた作品として、滝沢歌舞伎は見たことない人でも若者の間には多く知られており、滝沢歌舞伎を見たことがある若者の中で、6割以上は伝統的な歌舞伎を見たことがあるということがわかった。しかし、滝沢歌舞伎を知ったきっかけはその7割近くが滝沢秀明またはジャニーズに対する興味からであり、滝沢歌舞伎の観客の多くは歌舞伎ファンというよりも滝沢秀明またはジャニーズファンであることが分かる。

しかし、③滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への興味を招くかについての質問からは、滝沢歌舞伎を見たあと、伝統的な歌舞伎に興味を持ち始めた若者7割を超えているということも明らかになった。もともと滝沢秀明やジャニーズへの興味から滝沢歌舞伎を見た観客が伝統的な歌舞伎にも興味を持ったという結果により、滝沢歌舞伎は若者に伝統的な歌舞伎への興味を招く可能性が高いと言えるだろう。さらに、回答者に滝沢歌舞伎と伝統的な歌舞伎の共通点の有無に関しての意見を聞いた。ここ、共通点があるという結果が得られなければ、滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への興味を招くことはできないであろう。一時的な興味は招くことができたとしても、実際に伝統的な歌舞伎を見た結果、滝沢歌舞伎と共通する魅力を感じられなければ、伝統的な歌舞伎を好きになることはないであろうからである。結果、滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎と共通点があるとする回答の方が、共通点がないとする回答よりも多く、滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への持続的な興味を招く可能性を肯定する結果となった。ただし、「共通するところもあるが、違うところもあり、同じとは言えない」という回答も多く、また別の質問で、滝沢歌舞伎を見た後実際に伝統的な歌舞伎を見たことはないという回答も多い。これにより、滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎への興味を招くという確かな結論を明言することはできない。従って、実際に伝統的な歌舞伎を観劇する人を増やすには、どのような手段が必要なのかまた課題として残

っているが、本調査は、滝沢歌舞伎が伝統的な歌舞伎の「入門編」となる可能性を示しており、継続的な調査が望まれる。

6. おわりに

本レポートでは、アンケート調査を用いて、外国人を含む若者の間の歌舞伎に関する興味度を調べ、そして「滝沢歌舞伎」のような新しい形の歌舞伎がきっかけとなって、伝統芸能である歌舞伎が若者の人気を得る可能性を探ってきた。調査の結果、まず、多くの若者は歌舞伎に興味を持っているが、歌舞伎を見に行く機会がないということ、そして若者の間で滝沢歌舞伎の存在はよく知られており、滝沢歌舞伎を見た人は伝統的な歌舞伎に関しても興味を沸かしたということが分かった。こうした調査結果は、伝統的な歌舞伎が再び幅広い観客層の人気を得る一助となることが期待される。

ただし、本レポートでは、滝沢歌舞伎をきっかけに伝統的な歌舞伎に興味を持った人の中で、実際に伝統的な歌舞伎見に行った人が少ない理由について研究できなかったため、実際に伝統的な歌舞伎を観劇する人を増やすにはどのような手段が必要になることに関しては、不十分な研究結果となった。このことに関しては、さらなる検証が必要であると考えられる。

参考文献

- (1) 松竹 (2006) 「滝沢演舞城 | 新橋演舞場 | 歌舞伎・演劇 | 松竹」 < <https://web.archive.org/web/20060420160930/http://www.shochiku.co.jp/play/enbujyo/0603/index.html> >
- (2) 松竹 (2019) 「南座新開場記念 滝沢歌舞伎 ZERO」 『滝沢歌舞伎 ZERO』 < https://www.shochiku.co.jp/play/schedules/detail/minamiza_20190203/ >
- (3) 松竹 (2022) 「“滝沢歌舞伎 ZERO 2022”」 『滝沢歌舞伎 ZERO 2022』 < https://www.shochiku.co.jp/play/schedules/detail/takizawakabuki-zero-2022_enbujo/ >
- (4) 松竹衣装 (n.d.) 「演劇—THE THEATER—」 『演劇のジャンルと過去の公演情報』 < <https://www.shochiku-costume.co.jp/oshibai> >
- (5) 松竹株式会社 (2008) 『松竹歌舞伎検定公式テキスト』 株式会社マガジンハウス
- (6) スポーツ報知 (2010) 「滝沢歌舞伎！タッキー演出家デビュー…5年目「演舞城」」 < <https://web.archive.org/web/20101124105426/http://hochi.yomiuri.co.jp/feature/entertainment/johnnys/news/20100104-OHT1T00019.htm> >
- (7) 内閣府 (2022) 「各種法令による子供・若者の年齢区分」 『令和4年版子供・若者白書』 (<https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r04homon/pdf/app7.pdf>)
- (8) 内閣府政府広報室 (2003) 「世論調査報告書 文化に関する世論調査」 < <https://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-bunka/index.html> >

- (9) 永山敬一 (2014) 「歌舞伎における後継者選抜と育成制度」修士学位論文,慶應義塾大学
- (10) 奈良部和美 (2010) 「歌舞伎、芸能、文楽の最新動向」『国際交流基金 Performing Arts Network Japan』 (https://performingarts.jpf.go.jp/J/overview_art/1005_08/1.html)
- (11) 日刊スポーツ (2010) 「タッキー歌舞伎4・4演出家デビュー発表」 <
<https://www.nikkansports.com/entertainment/news/ft-tp0-20100222-598933.html>>2022年12月1日閲覧
- (12) 日本芸術文化振興会 (2019) 『歌舞伎への誘い〜Invitation to Kabuki』 <
<https://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/kabuki/jp/history/history1.html>>
- (13) 日本芸能実演家団体協議会 (2008) 「伝統芸能の現状調査 ―次世代への継承・普及のために報告書」 <<https://geidankyo.or.jp/img/issue/dentou.pdf>>
- (14) 文化庁 (2022) 「文化に関する世論調査 報告書」 <
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/93755801_01.pdf>
- (15) モデルプレス (2021) 「Snow Man 主演舞台「滝沢歌舞伎 ZERO 2021」無観客生配信決定に歓喜の声」 <<https://mdpr.jp/news/detail/2558430>>
- (16) 本木頼子 (2010) 「『滝沢歌舞伎』用のハードディスクを買ったよ！」『ポポロ』2010年6月号、学研、p.133-135.
- (17) 「滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie」製作委員会 (2020) 「ABOUT“TAKIZAWA KABUKI”」 <
<https://movies.shochiku.co.jp/takizawakabuki-zero-movie/>>
- (18) DAILYSPORTS ONLINE (2015) 「『滝沢歌舞伎』ジャニーズ舞台で初海外」 <
<https://www.daily.co.jp/gossip/2015/02/18/0007748952.shtml>>

<要約>

Kabuki is one of the most well-known forms of Japanese traditional entertainment, which roots back to more than 400 years ago, with Izumo no Okuni noted as the founder of Kabuki. The word “kabuki” is formed by three Japanese characters “歌” which means song (or music in this context), “舞” which means dance, and “伎” which means acting. These three characters represents all the three main aspects of Kabuki itself.

Entering the Showa period, modern types of entertainment are invented, and since then, traditional form of entertainments, including Kabuki, gradually declines in popularity, mainly among the younger generations. This results in in Kabuki’s audience age to slowly but surely getting older. Being a Kabuki actor also requires special skills and training, which is mainly only done by families of Kabuki actors, passed through generations, which makes it hard to find actors from outside the Kabuki family line. To prevent all these problems getting worse, new forms of Kabuki shows are made as an approach to get the attention from the younger generations, such as “Super Kabuki”, “Cocoon Kabuki”, “Shinsaku Kabuki”, and other types of shows that adopt Kabuki’s essences to their productions. One of them being Takizawa Kabuki, an omniverse style of theatrical show which adapts Kabuki’s aspects with Japan’s famous idol performances which are loved by the younger generations.

This paper’s main purpose is to find out the level of interest of the younger generations towards Kabuki and to explore Takizawa Kabuki’s potential as an attempt to introduce Kabuki to the younger generations. In this take, a survey questionnaire is conducted among 107 participants from Japan and outside Japan, around the age of 15 to 34 years old. From this survey, it is known that most of the younger generations does have an interest in Kabuki, but they haven’t got the chance to watch Kabuki either directly or from digital sources. This survey also shows that Takizawa Kabuki succeeded to make the younger generations who originally does not have interest towards Kabuki get interested. Takizawa Kabuki is surely not the same as what a traditional Kabuki show is, but Takizawa Kabuki inadequately implements Kabuki’s main points, and majority of those who participate in the questionnaire agreed that Takizawa Kabuki could be a proper way to introduce Kabuki towards the younger generations.

日中家族映画が日本語・日本文化学習及び異文化交流へ及ぼす影響

—『歩いても歩いても』と『一一』における家族の喧嘩場面を例に—

劉 曉榮

The impact of Japanese and Chinese family movies on
Japanese language, Japanese culture learning and
intercultural communication
—Examples of family fight scenes in " Still Walking" and " A One and a
Two"—

LIU XIAORONG

<要旨>

日本語学習者にとっては、日本語の学習に加えて、日本文化の理解や自国文化との差異を認識することが大変重要である。映画は通俗芸術の伝播形式の一つであり、国の文化意識の直接的な表現であるため、映画について学ぶことは、日本語・日本文化の学習に役立つといえる。本研究では、日本と台湾の映画『歩いても歩いても』と『一一』を取り上げ、それぞれの映画における家族の喧嘩の場面を例にとって、映画の中の家族構成と家族の喧嘩場面に対する比較研究を行った。さらに、家族の喧嘩場面の違いによって日中家族文化の違いを考察した上で、三重大学在学中の中国人日本語学習者 20 名を対象にアンケート調査を行った。その結果、家族構成方式は家族関係の発展に影響を与えうるということが示唆され、映画の中で日中家族喧嘩の仕方と解決方法も大きな違いがあるということが明らかになった。また、日本の家族映画は「日本文化を理解し学ぶ」という点において日本語学習及び異文化交流の能力育成に役立ち、有益であることも明らかになった。

キーワード：家族映画、日本、家族文化、日本語学習、異文化交流

1. はじめに

言語習得には、言語の知識を学ぶだけではなく、その文化を理解することも同様に重

要である。日本語の環境が限られた海外の日本語学習者は、他の視聴覚方式を借りることで、日本語の言語知識を習得したり、日本文化に対する認識と理解を強化したりすることもできる。異文化交流では、異なる文化を理解し、差異を認識することが重要であり、日本語学習者にとっても、日本文化の理解や自国文化との差異を認識することが大変重要である。

映画は通俗芸術の伝播形式の1つであり、文化意識の直接的な表現のひとつである。日本の家族映画は特定のスタイルに発展し、国際的にも広く人々に愛されている（鄭2000）。吉村（2010）は日本語教育で映画を取り入れた授業実践の成果として、映画に登場するセリフや日本人の身振り・表情・心情・人間関係、日本の文化・社会、母国の言語・文化・社会に対して学習者が興味関心を示し、理解を深めたことを報告している。つまり、映画は本に比べて音声や実際の場面などが分かりやすいため、言語学習や言語教育においても大きなメリットがあると考えられるわけである。したがって、日本と中国の家族映画を比較し分析することで、日本独特の家族観を理解し、自国との差異を明らかにすることによって異文化交流の促進が可能となる。

本研究では、『歩いて歩いても』と『一一』を取り上げて、映画の中の家族構成と家族喧嘩場面の比較を中心に、日中の家族観の差異を探索する。そして、日本の家族映画はどのような点において日本語学習及び異文化交流の能力に影響を与えるかを明らかにする。

2. 先行研究

2.1 家族観とは

家族観は結婚観、性別分業観や親子関係や夫婦関係など様々な分野に分けて研究されているが、「家族観とは何か」という問いに対する明確な説明や定義は難しい。本レポートでは、「家族」を定義した上で、「家族観」の意味を理解する。『デジタル辞泉』によると、「家族」は二つの意味がある。家族は夫婦とその血縁関係者を中心に構成され、共同生活の単位となる集団であり、近代家族では、夫婦とその未婚の子からなる核家族が一般的形態である。もう一つは、民法旧規定において、戸主以外の家の構成員という意味である。本レポートにおける「家族」は前者の意味として扱う。『新しい家族学』において、「家族とは、夫婦・親子・きょうだいなど、少数の近親者を主要な成員とし、成員相互の深い感情的関わり合いて結ばれた、幸福追求の集団である」（森岡・望月、1997）と定義されている。

鄭(1988)によると、「家族意識」とは、家族成員（親も含める）は「家族」（或いは集

団)に忠誠を尽くし、家族の利益のために個人的な欲望を抑えるという観念である。故に、本レポートにおける「家族観」とは家族という集団に対する意識を意味している。本研究では、このような意味においての日中家族映画における家族観を比較分析を行う。

2.2 家族映画『歩いても歩いても』と『一一』

本レポートにおける「家族映画」とは、鄭の観点から、明確に家族論理関係、家族両性生活と感情、個人的な追求と社会文化の衝突あるいは融合などをテーマや中心ストーリーにして、意識的に家族観を検討する映画である(鄭 2008)。

そして、中国における日本の家族映画の研究は主に小津安二郎、柳美里の『家族映画』や是枝裕和の家族に関する映画作品を中心として、家族観、家族の変遷、美学などの研究に集中している(例:李 2011、程 2021、張 2017、胡 2022)。そのほか、「中国と日本の家族倫理映画における感情表現の比較研究(馬 2020)」では、馬(2020)は日中の典型的な家族映画を数本挙げ、視聴覚言語の角度から、日中の家族倫理映画の感情表現における同じまたは近い倫理的価値観を探求し、東アジアの現代家族の血縁関係、家族の再構成、個人の価値表現における社会現象を分析した。そして、馬(2020)は「映画物語学」及び関連する映画理論を可能な限り把握し、また日中両国の近現代史と経済社会発展の現状に関する資料を整理した。「中国映画と日本映画における家族物語の分析——アン・リーと是枝裕和の映画を例に(何 2020)」においても、日中の家族映画に注目している。何(2020)は両者の映画の比較が叙事空間、映画のイメージ、映画のレンズ、および典型的な人物の分析を行い、文化の面から日中の家庭文化の形成背景の差異を検討した。その中で、文化から日中家族を研究する分析の角度は、本研究の参考となる。

2.2.1 楊徳昌と『一一』

台湾地区は移民社会であり、中国大陸とも繋がっていて、昔から中国の伝統文化の影響を深く受けている。歴史的記録によると、三国時代から中国漢人が台湾に来て、明清時代にはさらに福建省、広東省などの大陸人口が大量に流入した。台湾地区の衣食住などの社会文化だけでなく、家族観念についても大陸とほぼ同じである(陳 2013)。本レポートでは中国で有名な家族映画『一一』から典型的なシーンを取り上げて、中国伝統的、代表的な家族観を分析する。

この映画は主人公である簡南俊の家族を中心にそれぞれの生活軌跡から姑が亡くなるまでのストーリーを語る。台北にある伝統的な中国式のある大家庭の中で、各人の生活をめぐって、結婚式、赤ん坊の満月と葬式の3つの儀式を通して、人生の中で各段階の苦悩をすべて淡々と羅列した。また、重要なのは映画『一一』が家族、生命、死亡に対する考えを示唆した点である。

2.2.2 是枝裕和と『歩いても歩いても』

是枝裕和の映画も家族を題材にした作品が多く、社会や人間性を分析し、家族、社会、生死などの考えを示唆する。琉球新報によると、是枝裕和監督は、欧州ではしばしば「Ozuの孫」と称されてきたという。5月のカンヌ国際映画祭に出品した新作『海街 diary』は、小津安二郎の作品世界と通じる印象が強く、小津の孫ぶりに拍車がかかった。三重県出身の小津安二郎は黒澤明監督、溝口健二監督とともに日本を代表する映画監督である。小津は生涯を通して家族を題材にとり、親と子の関係や家族の解体などのテーマを描いた。さらに、佐々木総研グループによる2018年6月に配信された「社労士モリの映画あれこれ⑥～「万引き家族」(2018年・日本)～」という記事も小津安二郎と是枝裕和両監督に対する比較が指摘された。「小津監督が日本の家族の解体を淡々とかつ無常感を込めて描いた一方、是枝監督はあえて血の繋がらない者同士が生活を一つにする姿を通じて、新しい家族の在り方を模索しているかのように感じます。」故に、小津安二郎の影響を受けながらもイノベーションを起こした是枝裕和の家族映画を研究することによって、日本の独特な家族文化だけでなく、三重県の家族文化や是枝裕和式の家族観を理解できる可能性を持つことから『歩いても歩いても』に関する映画研究は重要な意味を持つ。

この映画は横山家の次男・良多が久しぶりに実家に帰省し、長兄・純平の忌日に家族が集まり、この大家族の1泊2日のうちに起こった食事、散歩、写真撮影、おしゃべり、シャワー、睡眠などの些細なことを語った。しかし、これらの些細な事の中で横山一家の矛盾と衝突を明らかにして、日本式の家族の特徴も描いた。

2.3 家族における喧嘩についての先行研究

中国における喧嘩についての先行研究には于(2006)や劉(2011)などが挙げられる。于(2006)では、喧嘩の基本的な特徴は次の四つにまとめた。1. 喧嘩は言語行為である。2. 喧嘩は暴力的である。3. 喧嘩は意図的である。4. 喧嘩は双方向である。喧嘩は不調和な対人関係における対立の現れであり、喧嘩における双方の相互激化の産物である。この喧嘩の定義を、本レポートにおける家族の喧嘩の定義とする。また、劉(2011)では、喧嘩文と語用論の角度から、喧嘩の原因と結果を分析しており、喧嘩行為の価値と喧嘩の解決方法を明らかにした。その中で、「喧嘩は人間の争いの中で最も普遍的な現象であり、人間のコミュニケーションにおける異常な方法である」と述べており、喧嘩は対人関係の発展の方向に影響を与え、喧嘩についての研究は人間のコミュニケーションにとって重要な意味を持つことになる。この角度も本レポートで映画における家族喧嘩後、家族関係の発展に関する分析の参考とする。

日本における喧嘩に関する研究では、飛田(1997)が大学生を子どもにもつ日本人夫婦の間に対立や葛藤が生じたときの対処方略について考察した。そして夫は、自分では「我慢して、対立を避ける」、「穏やかに説得する」、「黙り込む」といった方略を使用していると思っているが、妻は、夫が「言い張ったり、命令したりする」、「黙り込む」などの方略を使用していると報告した。

2.4. 文化と語学学習の関係

ある言語をしっかり身につけ、効果的なコミュニケーションを達成したいのであれば、基礎知識の読む、書く、聞くや話す能力だけでなく、その言語の背後にある文化も把握し、基礎知識と社会状況を結びつけて言語の実践をしなければならない。現代の英語教育においては、言語能力を習得させるだけでは事足りず、言語の背後にある多様な文化に対応でき ICC（異文化コミュニケーション能力、Intercultural Communicative Competence の略）を育成することが欠かせないという（印田 2010）。そして、異文化コミュニケーションは言語の実践方式の一つである。だが、地域と文化の差異があるため、各国の文化を深くに理解しなければ交流の間で誤解や衝突を招き、逆にコミュニケーション、言語実践に失敗する可能性がある。Hyde(1998)は、どんなに英語を流暢に話すことができても、誤解や衝突を招きかねない文化的要素として、身体表現、沈黙、丁寧表現などの14項目を挙げ、EIL(English as a International Language)ではこれらを知らずしてコミュニケーションは成立しないとしている。この研究は異文化コミュニケーションに対するお互いに文化理解の重要性を明らかにした。中国の日本語学習者においても同様である。だからこそ、その言語に対応する社会文化への理解は言語実践、言語学習において重要な役割を果たしている。日本と中国の家族映画の比較研究を通じて、日本の独特な家族文化や家族観を理解し、お互いの文化理解を深め、有効なコミュニケーションを促進し、中国の日本語学習者の日本語・日本文化学習にも役立てることができると考えられる。

3. 『歩いても歩いても』と『一一』の比較

『歩いても歩いても』と『一一』はどちらも家族映画に属する。映画のテーマは家族の感情と自分の価値をめぐって展開し、監督が自ら製作して監督した代表作の一つである。しかし、映画が表現した家族観は大きく違う。二つ映画の物語は家族叙事を中心とするが、家族構成あるいは家族形態と家族喧嘩場面の描かれ方によって異なる家族観を示した。よって、本レポートは家族叙事を入り口にして、映画の叙述学の角度から映画の中の家族構成と喧嘩場面の比較を中心に、日中の家族観の差異を分析する。そして、

映画の叙事学の紹介をはじめ、家族構成と喧嘩場面をそれぞれ分析し、その相違点を説明する。

3.1. 映画の叙事学について

映画叙事学は叙事映画を研究基礎として、叙事映画の中の語り手と受取者、時間と空間、物語とストーリーなどを検討する（翟 2023）。映画叙事学が主に文学叙事学の長い間蓄積した経験と方法を参考にして、映画の叙述内容、叙述構造、叙述方法などが含まれている。そこで、本研究では、主に映画の叙述内容の角度から、映画のストーリーにおける家族の構成と家族喧嘩場面の違いを分析し、それに基づいて表現された日中の家族観の違いを分析する。

3.2. 相違点

3.2.1. 家族構成の比較

家族構成の面において、『歩いて歩いても』中の家族は核家族世帯で、『一一』の中では大家族三世帯の構成と言う違いが見られる。厚生労働省の核家族についての「用語の説明」によると、核家族世帯とは三種類がある。1. 夫婦のみの世帯: 世帯主とその配偶者のみで構成する世帯をいう。2. 夫婦と未婚の子のみの世帯: 夫婦と未婚の子のみで構成する世帯をいう。3. ひとり親と未婚の子のみの世帯: 父親又は母親と未婚の子のみで構成する世帯をいう。『歩いて歩いても』中の家族は一つ目で、良多の両親の家庭と良多自分の家庭は別に住んでいる。一方、『デジタル辞泉』の解釈によると、大家族とは「多人数の家族」、或いは「直系家族のほかに傍系親族までも含む多人数の家族」である。『一一』の中では、主人公である簡南俊の家族は、親と夫婦、子供三世帯の大家族の形式で皆一緒に生活している。また、この家族構成の違いは家族間の関係の繋がりが強いかどうかで反映された。『歩いて歩いても』で良多の息子と良多の両親の間には距離感があり、家族関係の繋がりが強くないと考えられる。一方、『一一』の中で簡南俊の息子と娘は祖母との関係が親密であり、祖母が亡くなったとき非常に悲しむことから、家族の繋がりが強いと考えられる。

ここからわかるように、家庭という団体の本質では、日本の核家族世帯と中国大家族三世帯のような家族構造の構成方式が異なり、この家族構造の違いが、家族に対する見方、重視度、家族関係の認識などにも異なる影響を与えることとなる。また、これは、家族成員の間関係と家族価値観にも影響を与える。

3.2.2 喧嘩場面の比較

『歩いて歩いても』で、横山と父親の喧嘩は相対的に日常的で、感情の表現が平淡に描かれている。父親は長男が15年前に救った芳雄が役に立たない人だと思い、息子の

ためにこのような人を救うのは価値がないが、良多は父の偏心と不承認で芳雄のために話していたため、父親と喧嘩した。横山と父親は二人とも自分の自尊心に固執することがあり、家族の気持ちと家族との調和を考えて、喧嘩が激しくなる代わりに沈黙の方式で喧嘩を解決する。しかし、『一一』では阿弟の元ガールフレンドが赤ちゃんの満月宴席に参加することを導火線として、親友はお互いに罵り合いから殴り合う。中国式の喧嘩を生き生きと描き、お互いに大声で叱り、感情が刺激された後の大殴り合いの解決策、混乱で危険でコントロールできない場面を表現した。

両映画は、中国と日本の家族の最大の違いは日常生活の家庭構造が違う。家族団体構造の違いは日中家族の生活習慣、家族文化が違う原因の一つと考えられる。そして、喧嘩後の発展から見ると、映画『一一』において阿弟と妻は仲直りしたが、『歩いて歩いても』において横山と両親の間の親愛の隔たりは両親が亡くなるまで消えなかった。このことから、家族構成方式は家族関係の発展にも影響を与えうると言うことも示唆される。

4. 日中家族映画が日本語学習に与える影響に関するアンケート調査

4.1. アンケート調査の概要

映画における日中家族構成と喧嘩場面の相違点を明らかにした後、両映画の喧嘩場面について、アンケート調査を行った。調査は主に『歩いて歩いても』と『一一』という家族映画を素材にして、日本の家族映画がどのような点において日本語学習及び異文化交流の能力にどんな影響を与えるかを明らかにするものである。このアンケート調査は三重大学の中国人日本語学習者 20 名を対象に、映画の一部分を鑑賞させ、理解を問う方式で 2023 年 5 月から 6 月にかけて電子フォームで実施した。鑑賞させる部分は、両国の特徴が見られる代表的なシーンであり、筆者が選定した 3 分程度の家族が喧嘩する場面である。

4.2. アンケート調査の結果と分析

アンケート調査で用いた質問と回答選択肢は、付録を参照されたい。そのうち、質問 1、2 は個人情報について問うものであった。質問 3～7 は、日本語学習者が好きな映画タイプと映画を選ぶ理由について聞いた。また、質問 8～11 は、日中映画を見た経験について、質問 13、14 は、『歩いて歩いても』と『一一』の中で家族喧嘩の場面への理解について調査した。質問 12、15、16、17、18 は、日本映画が日本語・日本文化学習及び異文化交流へ及ぼす影響について調査した。最後に、質問 19 は本アンケート調査の効果について質問した。

表1 質問3「映画を見るのが好きですか」

	比率(%)
好き	55
普通	45
好きではない	0

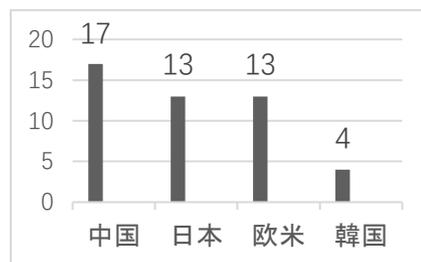


図1 質問4 単位(名)

質問3に対して、映画を見ることに対して55%の人が「好き」、45%の人が「普通」と答えた。そして、「好きではない」と答えた人が0%であった(表1)。この結果からわかるように、大衆は映画への受容度が高いことが分かった。そして、質問4「どの地域の映画作品を最も好みますか」の結果から、17名は「中国の映画が好き」、13名は「日本と欧米の映画が好き」で、4名が「韓国」と回答した(図1)。日本の映画は中国人日本語学習者の間でも受け入れられていることがわかった。

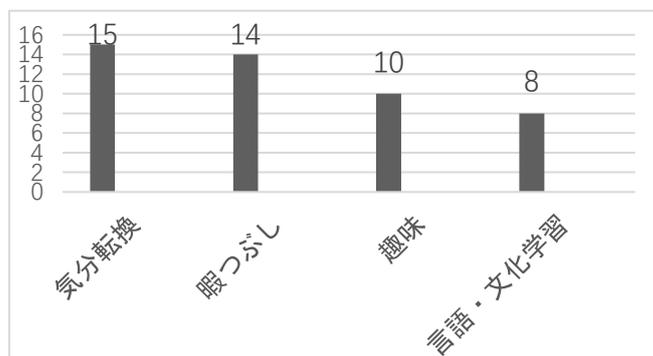


図2 質問5の結果 単位(名)

質問5「あなたが映画を見る理由は何ですか」について、15名は「気分転換」と回答した。また、14名は「暇つぶし」を選択した。そして、10名が「個人的な趣味」で、8名が「言語や文化を学ぶこと」と回答した。表1の結果によって「映画が好き」という人の比率が高いが、図2からみると大部分の人は心理的な要因で映画を見るということが分かる。言語や文化の学習のためにわざわざ見に行く人は40%に過ぎない。映画が言語文化学習の役割を發揮することはまだ大きな発展の余地がある。

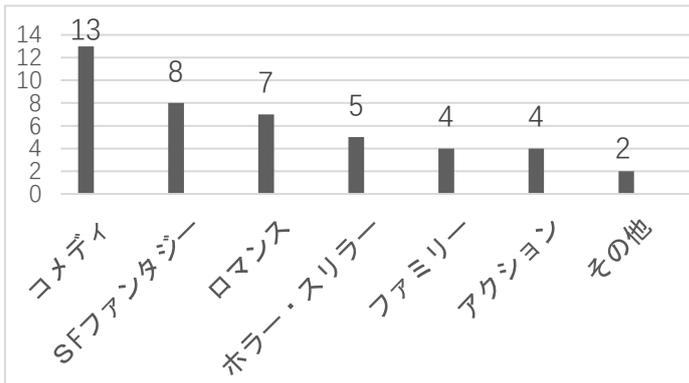


図3 質問6の結果 単位(名)

質問6「あなたが好きな映画のジャンルはどれですか」については、13名はコメディが好きであると答えた。また、8名はSFファンタジーを選択した。7名はロマンスが好きであると回答した。そして、5名がホラーまたはスリラーと答えた。ファミリーとアクションはそれぞれ4名と答えた。その他は2名と答えた。この結果から家族映画のジャンルはあまり流行していないとわかった。だからこそ、日本の家族観を広く伝えるために日本の家族映画についてより多く宣伝する必要があると考えられる。

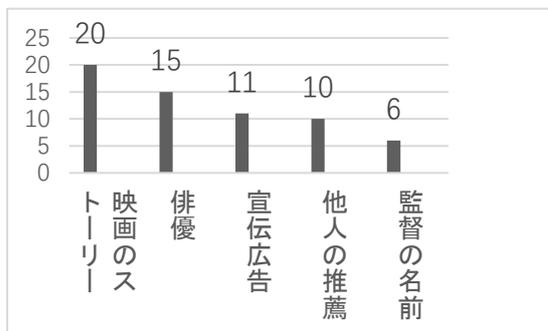


図4 質問7の結果 単位(名)

図4は質問「あなたが映画を選ぶとき、どのようにして選びますか」についての結果を示す。映画を選ぶのに影響を与えた要因として、20名は「映画のストーリー」を選択した。次は15名の「俳優」である。「広告を見る」は11名、10名が「他人の推薦」を、「監督の名前」は6名が選択した。つまり、映画の鑑賞者にとって一番重要なのは映画の内容とストーリーであり、映画が伝えたい文化の影響度とも繋がっている。

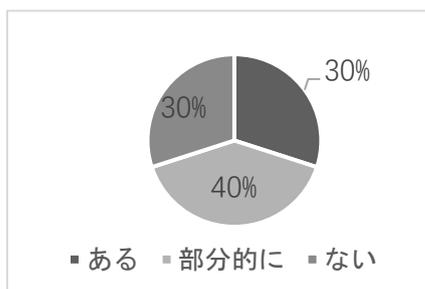


図5 質問8の回答

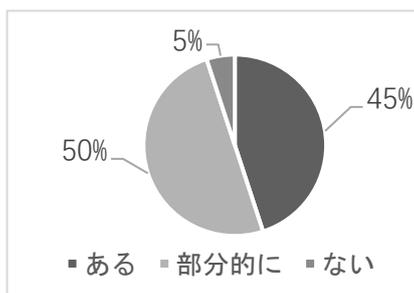


図6 質問9の回答

質問8は「日本の家族映画を見たことがありますか」という質問であるが、図5から、日本の家族映画を見たことがあると見たことがない人はそれぞれ30%であることが分かった。40%の人は部分的に見たことがあるとのことである。そして、図6は「中国の家族映画を見たことがありますか」という問いであるが、45%の人は中国の家族映画を見たことがあるが5%の人は見たことはないことが明らかになった。そして、50%の人は部分的に見たことがある。つまり、「ある」と「部分的に」を合わせると、日本及び中国の家族映画はある程度人気があることがわかった。

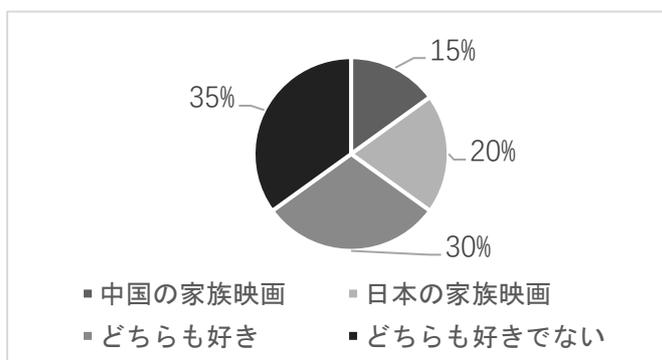


図7 質問10の結果

質問10「あなたは日中の家族映画のどちらを好みますか」には、日本と中国の家族映画に対して、15%の人は中国の家族映画を好み、20%の人が日本の家族映画を好むと回答した。そして、30%の人は「どちらも好き」、35%は「どちらも好きではない」と回答した。この結果からわかるように、中国の家族映画より日本の家族映画を好む人の比率が多少高いことが分かる。また、図3の質問6「あなたが好きな映画のジャンルはどれですか。」の結果で家族映画が好きな人の比率が低いことが明らかになったが、この結果の中で「どちらも好きではない」の比率が一番高くなったことも理解できる。

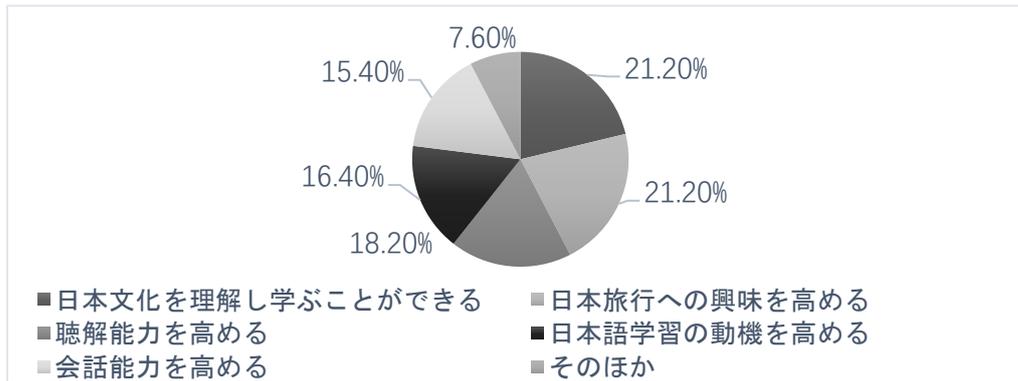


図8 質問12の結果

質問12「あなたが日本の映画を見ることは自分自身の日本語や日本文化の学習に、どのように役立つと思いますか」は採点式で日本の映画が言語学習に与える影響について質問したものである。その結果、「日本文化を理解し学ぶことができる」と「日本旅行への興味を高めることができる」はそれぞれ21.2%を占めていた。そして、18.2%が「聴解能力を高めることができる」、16.4%が「日本語学習の動機を高めることができる」と評価した。「会話能力を高めることができる」は15.4%であった。この結果からわかるように、日本の映画が「日本文化を理解し学ぶこと」で自分自身の日本語・日本文化の学習に一番大きな影響を与えることが分かった。

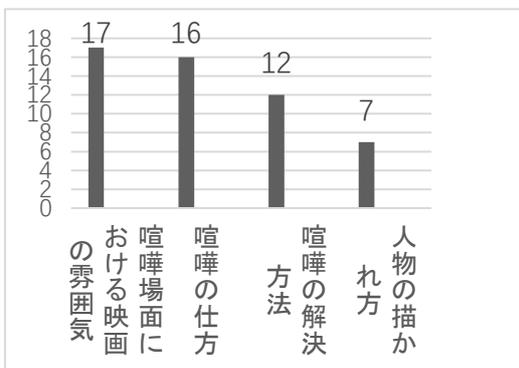


図9 質問13の結果 単位(名)

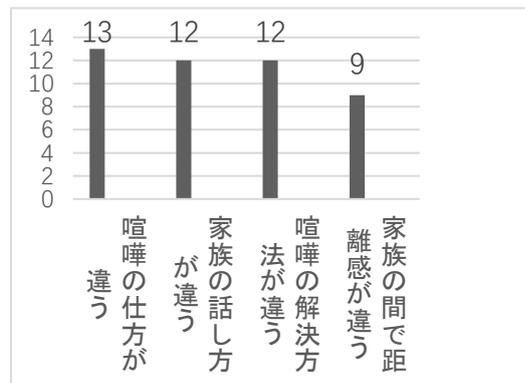


図10 質問14の結果 単位(名)

質問13と14は「歩いても歩いても」と「一一」の喧嘩の場面について調査した。質問13「『歩いても歩いても』と『一一』の喧嘩の場面を見てどのような違いが感じられますか」の結果から、20名中17名が「喧嘩の場面における映画の雰囲気が違う」と答えた。また、16名は「喧嘩の仕方が違う」を選択した。そして、12名が「喧嘩の解決方法」、7名は「人物の描かれ方」が違うと回答した。結果からわかるように、映画撮影の

技術を除いて、映画の中に喧嘩の仕方と解決方法の違いが最も大きかった。また、質問 14 「『歩いても歩いても』と『一一』の喧嘩の場面を見て、日本と中国の家族はどのような違いがあると感じましたか。」の結果から「歩いても歩いても」と「一一」の喧嘩の場面における日本と中国の家族が一番大きな違いも喧嘩の仕方であり、13 名となった。そして、「家族の話し方が違う」と「喧嘩の解決方法が違う」はそれぞれ 12 名になった。「家族間の距離感が違う」は 9 名であった。したがって、調査対象は日本家族映画によって日中家族の付き合い方と喧嘩の仕方への認識がより深くなり、日本と中国の家族観についてさらに認識したと考えることができる。

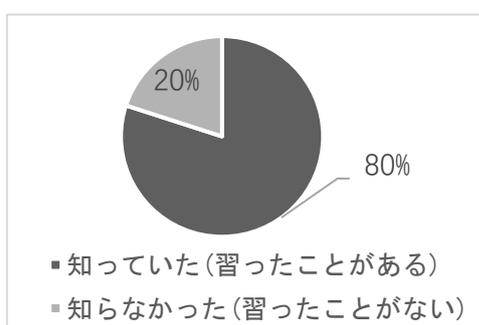


図 11 質問 15 の結果

表 2 質問 16 「この映画を通して『察しの文化』についての理解はどの程度深まりましたか」の結果

点数 (点)	10	8	7	6	5	4	3	2
人数	1	2	1	6	3	4	1	2

質問 15 「映画『歩いても歩いても』の喧嘩の場面において、主人公が喧嘩をするとき文を最後まで言わず、聞き手にゆだねる「察しの文化」があるといわれています。あなたはこのことについて知っていましたか」は日本の独特な「察しの文化」について調査したものである。結果は、80%の人はこの文化について「知っている」、または「習ったことがある」ということであった。そして、20%の人が「知らなかった」または「習ったことがない」と答えた。そして、質問 16 はこの映画を通じて「察しの文化」への理解程度を「理解が深まらなかった」から「理解が深まった」に分け、0 点から 10 点までの点数を付けて調査する。そして、表 2 の結果からみると、映画の中で主人公が喧嘩をするときの場面において、文を最後まで言わず、聞き手にゆだねる「察しの文化」に対す

る理解は、13名が5点及び5点以上の点数を評価して、7名が4点及び4点以下の評価をした。平均値は5.35になった。ゆえに、この結果から日本映画を通じて、日本語学習者が日本文化に対しての理解はより深くなったことが分かった。

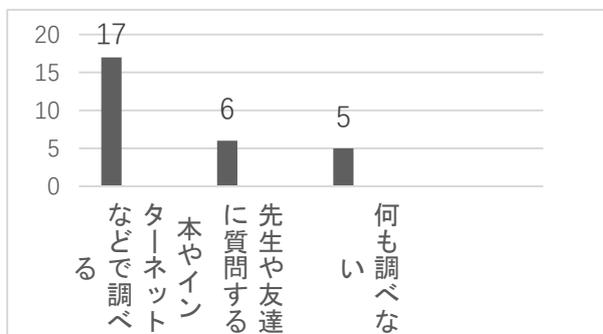


図12 質問17の結果 単位(名)

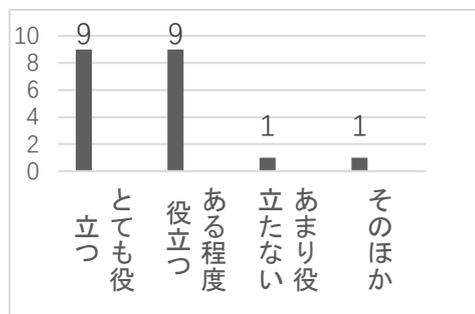


図13 質問18の結果 単位(名)

質問17「日本の映画を見ていて、よく理解できない日本語や日本文化（場面）に出会ったとき、あなたはどのようにしますか」の結果から、17名は日本の映画を見ていて、よく理解できない日本語や日本文化（場面）に出会ったとき、本やインターネットなどで調べることが分かった。そして、6名は先生や友達に質問し、5名が何も調べないことが分かった。つまり、日本映画を通じて日本語学習者たちが日本語や日本文化への興味を引き付けて、自主学習も促進する可能性があることが分かった。そして、質問18「あなたが他の国の映画を見ることは自分自身の異文化理解にどのぐらいに役立つと思いますか」に対して、「とても役立つ」と「ある程度役立つ」はそれぞれ9名が回答し、1名は「あまり役立たない」と回答した。また、映画には架空の物語があり、現実の文化を反映しているとは限らないと思っている人も1名いるが、全体的には異なる国の映画を見ることは言語と文化の習得だけではなく、異文化交流や異文化理解に強い影響を与えられていることが明らかになった。

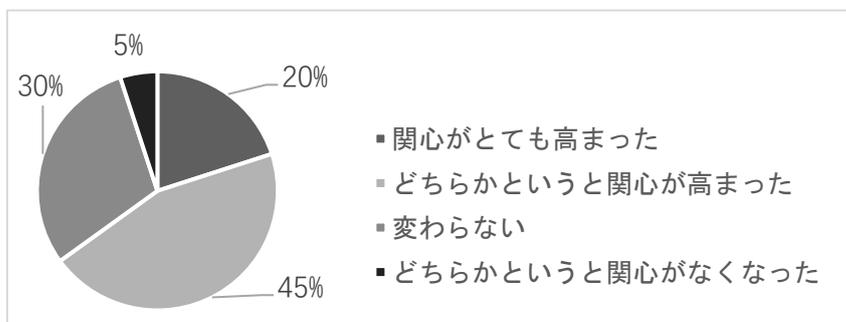


図16 質問19の結果

質問 19 について、20%の人は日本の家族映画への「関心がとても高まった」と回答し、45%の人が「どちらかというに関心が高まった」と回答した。つまり、65%の人が関心が高まったということになる。そして、30%の人は変わらず、5%の人はどちらかというに関心がなくなったと答えた。この結果からわかるように、本アンケート調査の実施が中国人日本語学習者の間で日本家族映画の普及を促進してき、映画が日本語・日本文化の学習に与える影響への認識も明らかになった。

5. 考察

以上から、まず、20代を中心とする今回の調査の協力者にとって、映画への受容度が高く、中国人日本語学習者の間では、日本の映画は受け入れられていると言うことが明らかになった。しかし、質問5～9の結果から、言語や文化の学習のために映画を見る人が少なく、観衆たちにとって、映画の内容とストーリーが一番重要なものだが、日中の家族映画は本研究の調査協力者の間ではあまり受け入れられていないことが分かった。また、言語学習のために映画を見る人は少ない。この結果から、家族映画のストーリーの豊かさと質の良さを基にして知名度と伝播率を高めれば、映画背後の言語文化の伝播をさらに促進する可能性があると考えられる。また、質問10、15～18の結果から、日本の家族映画が日本語・日本文化学習には「日本文化を理解し学ぶこと」という点で大きな影響を与えたことを解明した。日中家族映画の比較鑑賞によって日本の文化が理解できただけでなく、異文化交流の能力にもとても役立つことも明らかにした。

6. 終わりに

本レポートでは、『歩いても歩いても』と『一一』を取り上げ、映画の中の家族構成と家族の喧嘩場面の比較分析を中心にして、日中家族観の差異を探索した。その結果、本研究を通して中国と日本の家族の基本的な違いは日常生活の家族構造の違い、この違いが日中家族の生活習慣、家族文化は違う原因の一つと考えられることがわかった。また、喧嘩後の展開から見ると、このような家族構成方式は家族関係の発展にも影響を与えていることもわかった。そして、この違いと影響をさらに探索するために行った「日中家族映画が日本語学習に与える影響に関するアンケート調査」の結果により、異文化交流の背景で日本の家族映画は「日本文化を理解し学ぶ」という点において日本語学習及び異文化交流の能力には役立ち、有益であることを解明した。

今後は、日本語教育現場における家族映画の実際の活用法とその効果についての検証を行っていきたい。

注

注1 Hyde (1998) による14の項目は、phatic communion, silence, swearing, topic choice, taboo, body language, intonation, turn-taking conventions, backchanneling, explicitness or inexplicitness, sending and interpreting metamessages, pragmatics, politeness, exophoric reference である。

参考文献

- (1) 渡辺千恵子 (2003) 『家援助論』 同分書院 p23.
- (2) 吉村弓子 (2010) 「映画を用いた日本語教育」 北海道言語文化研究 p3-12.
- (3) 『デジタル辞泉』 小学館
- (4) 森岡清美・望月嵩 (1997) 『新しい家族学』 培風館 P4.
- (5) 印田佐知子 (2010) 「英語教育における異文化コミュニケーション能力の育成」 『目白大学人文学研究』 6 : p163-180.
- (6) 飛田操 (1997) 「家族関係と葛藤」 『紛争解決の社会心理学』 p186-206.

<中国語参考文献>

- (1) 程浩 (2021) 「是枝裕和家庭影片的美学思想与影像风格探究——以《步履不停》《如父如子》为例」 『声屏世界』 No. 491 (13) :124-126.
- (2) 陈晓玲 (2013) 「传统与现代冲突下的台湾婚姻家庭观的演变——以台湾桃山村婚姻家庭为例」 『现代台湾研究』 No. 108 (04) :63-66.
- (3) 胡欣茹, 郭天光 (2022) 「解构与重构——是枝裕和家庭电影内核透视」 『西部广播电视』 43 (10) :94-96.
- (4) 何音 (2020) 「中国映画と日本映画における家族物語の分析」 湖北工科大学.
- (5) 李文强 (2011) 「透视导演小津安二郎的家庭电影」 『怀化学院学报』 30 (11) :43-45.
- (6) 刘薇 (2011) 「吵架文本及其语用分析」 湘潭大学.
- (7) 馬姣姣 (2020) 「中国と日本の家族映画の感情表現の分析」 『戏剧之家』 (09) :114.
- (8) 于磊娟 (2006) 「吵架言语行为研究」 山东大学.
- (9) 郑欣力 (1988) 「从“日本式经营”看日本人的“家族意识”」 『社会学研究』 (06)
- (10) 郑冬晓 (2008) 「家庭电影:新主流电影的一种形态」 『电影文学』 (04) :4-6.
- (11) 郑亚玲 (2000) 「作为国际电影市场的日本电影市场」 『北京电影学院学报』 (01) :87-91
- (12) 张娣 (2017) 「《家庭电影》中柳美里“家庭观”转变的原因探析」 『兰州教育学院学报』 33 (08)

(13) 翟治江 (2023) 「电影叙事学视角下的《风中有朵雨做的云》」『戏剧之家』
No. 450(06):149-151.

<ホームページ>

(1) 厚生労働省 「用語の説明」 2023年7月3日閲覧

<<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa11/dl/06.pdf>>

(2) 佐々木総研グループホームページ(2018)「社労士モリの映画あれこれ⑥～「万引き家族」(2018年・日本)～」<<https://www.sasakigp.co.jp/column/10009992>> 2023年7月3日閲覧

(3) 琉球新報(2015)「是枝裕和監督、本当は小津が好き? ご本人に聞いてみた」

<<https://ryukyushimpo.jp/news/preentry-244147.html>> 2023年7月3日閲覧

付録

<日中家族映画が日本語学習に与える影響についての調査>

初めまして。三重大学国際交流センターのリユウギョウエイと申します。本アンケート調査は主に日本の映画『歩いても歩いても』と中国の映画『一一』という家族映画を素材にして、異文化交流の背景で日本の映画が日本語学習にどんな影響を与えるかを調査するものです。本アンケートにおける「家族映画」とは家族の生活を中心として様々な活動やイベントを話す映像記録のことを意味します。

このアンケートの内容と結果はレポート作成にのみ使用されます。恐縮ですが、6月1日までにお答えくださいますようお願い致します。何卒よろしく願い申し上げます。以下の点について、お答えください。

1. 男 女 その他

2. 年齢 18歳以下 18-29歳 30-50歳 50歳以上

3. 映画を見るのが好きですか。 好き 普通 好きではない その他____

4. どの地域の映画作品を最も好みますか。

①欧米 ②日本 ③中国 ④韓国 ⑤その他____

5. あなたが映画を見る理由は何ですか。(複数回答可)

①時間をつぶすこと ②個人的な趣味 ③言語や文化を学ぶこと

④気持ちを切り替えること ⑤その他____

6. あなたが好きな映画のジャンルはどれですか。(複数回答可)

①ロマンス ②SF ファンタジー ③ホラーまたはスリラー ④コメディ

⑤ファミリー ⑥アクション ⑦その他_____

7. あなたが映画を選ぶとき、どのようにして選びますか。(複数回答可)

①監督の名前で ②俳優で ③映画のストーリーで ④広告を見て ⑤他人の推薦で
⑥その他_____

8. 日本の家族映画を見たことがありますか。 ある ない 部分的に

9. 中国の家族映画を見たことがありますか。 ある ない 部分的に

10. あなたは日中の家族映画のどちらを好みますか。

①中国の家族映画 ②日本の家族映画 ③どちらも好き ④どちらも好きではない

11. 『歩いても歩いても』と『一一』という映画を見たことがありますか。

『歩いても歩いても』を見たことがある 『一一』を見たことがある 両方見たことがある
両方見たことがない

12. あなたが日本の映画を見ることは自分自身の日本語や日本文化の学習に、どのように役立つと思いますか。(合計 25 点)

「とても役立つ 25~20~15~10~5~0 全然役立たない」

①会話能力を高めることができる ②聴解能力を高めることができる
③日本文化を理解し学ぶことができる ④日本語学習の動機を高めることができる
⑤日本旅行への興味を高めることができる ⑥その他_____

13. 「歩いても歩いても」と「一一」の喧嘩の場面を見て、どのような違いが感じられますか。(複数回答可)

①喧嘩の仕方 ②喧嘩の解決方法 ③人物の描かれ方 ④喧嘩の場面における映画の雰囲気
⑤その他_____

14. 「歩いても歩いても」と「一一」の喧嘩の場面を見て、日本と中国の家族はどのような違いがあると感じましたか。

①家族同士の距離感が違う ②家族の話し方が違う ③喧嘩の仕方が違う
④喧嘩の解決方法が違う ⑤その他_____

15. 映画「歩いても歩いても」の喧嘩の場面において、主人公が喧嘩をするとき文を最後まで言わず、聞き手にゆだねる「察しの文化」があるといわれています。あなたはこのことについて知っていましたか。

①知っていた(習ったことがある) ②知らなかった(習ったことがない) ③その他_____

16. この映画を通して「察しの文化」についての理解はどの程度深まりましたか。

理解が深まった 10~0 理解が深まらなかった

17. 日本の映画を見ていて、よく理解できない日本語や日本文化(場面)に出会ったと

き、あなたはどうしますか。

①本やインターネットなどで調べる ②先生や友達に質問する ③何も調べない

④その他_____

18. あなたが他の国の映画を見ることは自分自身の異文化理解にどのぐらいに役立つと思いますか。

とても役立つ ある程度役立つ 少ししかない 全くない

19. 今回のアンケートの記入を経て、あなたは日本の家族映画への関心はどのような変化をしましたか。

①関心がとても高まった ②どちらかというに関心が高まった

③変わらない ④どちらかというに関心がなくなった ⑤関心がなくなった

ご協力誠にありがとうございました。

<要約>

随着当今全球化的发展，国际间的跨文化交流愈发频繁。对于日语学习者来说，对日本文化的理解和其与自身国家差异的认识十分重要。而电影作为一种通俗的文化艺术传播形式，是国家文化意识的直接体现。因此，通过对电影的学习研究，能够有助于日本语、日本文化的学习。本文主要以日本是枝裕和导演和中国台湾杨德昌导演自编自导的著名代表电影作品《步履不停》和《一一》为例，分别选取电影中的家庭吵架场面为例，以电影叙事学角度为切入口，对比分析电影中的中日家庭的家庭构成和家庭吵架场景的差异，从而考察分析中日家庭文化的差异。并且，在理解和认识日本家庭文化及其与中国家庭文化差异的基础之上，进一步通过问卷调查的形式，以 20 名三重大学在读中国人日语学习者作为调查对象，就日本家庭电影对日本语、日本文化学习以及跨文化交流的影响及其影响程度展开调查研究，并对其结果进行分析和报告。

タイ語版三重県ガイドの効果とタイ人観光客の意識

ゲートイン ティティガーン

The Effects of the Thai Guide to Mie Prefecture and The Awareness of Thai Tourists

Titikan Ketin

<要旨>

JNTOによると、2009年から2021年まで東南アジアからの外国人観光客において、最も多く受け入れたのはタイからであり、三重県の東南アジア諸国外国人宿泊者の1位もタイが占めていた。本研究では、より多くのタイ人観光客が三重県を訪問するために何ができるかを検討するため、タイ語による観光情報提供の効果とタイ人観光客の意識を明らかにすることとした。研究の結果、英語以外の外国語で観光情報を提供する効果が明らかになり、また、タイ語版の提供による効果も示された。さらに、タイ人50名に実施したアンケート調査では、タイ人観光客の訪日歴、観光地選択の要因、情報アクセス源などが明らかになった。本研究の結果、三重県を訪れる主な要因は、知り合いの口コミやウェブサイト観光情報の宣伝方法や情報提供が重要である。最後に、三重県におけるタイ人観光客の増加を促進するために、今後も三重県の観光情報を提供し続け、面白い観光情報や宣伝方法などを工夫する必要があることが明らかになった。

キーワード：訪日観光、タイ人観光客、三重県観光、外国語による観光情報提供

1. はじめに

JNTO(日本政府観光局、Japan National Tourism Organization)によると、2009年から2021年まで、観光を目的とした訪日外国人観光客の中で、タイは東南アジア諸国の中で1位を占めていた。訪日タイ人観光客は2012年から急激に増加し、2019年に最多となった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2020年の訪日外国人は急激に減少した。2018年に三重県を訪れた外国人宿泊者は、1位は中国の32.5%で、2位が台湾の11.6%、3位がタイの8.9%であった。さらに、タイ人の観光客は前

年比 124%増と、過去最高の記録であった。2017 年は前年比 50%増であった。三重県では、三重観光振興基本計画として、三重県内の振興概念や基準、各種施策など、毎年観光施策の計画が立てられ、評価と結果を発表している。観光客向けの三重観光の情報を提供しているのは「観光三重」というウェブサイトである。現在、外国人観光客向けに 6 言語から選ぶことができる。

本研究の目的は 2 つある。まず、外国人の母語で観光情報を提供する効果の検証とタイ人観光客の意識を明らかにすることである。外国人の母語による観光情報提供の効果については、観光情報を提供サイトの担当者にインタビューして明らかにする。タイ人観光客の意識については、50 名のタイ人観光客を対象としてアンケート調査を行う。具体的には、三重県を訪問したことがあるタイ人と、日本は訪問したことがあるが、三重県は訪れたことがない人、日本を一度も訪問したことがない人である。これらの調査により、三重県におけるタイ人観光客をいかに増加させるかについて検討していく。

2. 先行研究

2. 1. 訪日タイ人観光客の現状

2009 年から 2021 年まで観光を目的とした訪日外国人観光客の中で、タイは東南アジアの中で 1 位を占めていた (JNTO 2021)。また、コチャストーン (2018) は、タイ人観光客は再訪日率が 50%であることを述べている。そして、観光の目的はレジャーであり、人気のある期間は冬で、消費金額は 60,000~120,000 円であること、主な観光の問題は言語であることを述べた。シュンサン他 (2020) は再訪日の要素について、環境、価値観、観光地、便利さ、安全性であることを明らかにした。野呂他 (2017) は、タイ人から見た日本の魅力について探るため、タイの大学生に対するアンケート調査を実施した。そして、アンケートの結果から日本の「歴史」や「文化」、「生活」に強い関心を持っていることを明らかにし、多くの観光客がそれらに触れる体験をしているということがわかった。さらに、自国では体験することができない日本の「自然」に触れていると述べている。

2. 2. 外国語による日本の観光情報提供について

インターネットでの観光情報の発信は、2000 年から増加する傾向にあり、日本の滞在中に得た旅行情報で役に立つものはスマートフォンを用いたインターネットアクセスであると発表された。三ツ木 (2017) は、各都道府県の観光情報サイトのリストやホームページで閲覧可能な言語や、日本観光に関する海外のサイトについても紹介している。DESTINATION・マーケティングは大変重要な活動

であり外国語でホームページを閲覧できるようにすることは、訪日旅行者数を増やす機会を創造することにつながると述べている。

2. 3. 訪日外国人観光客に対するアンケート調査

中田(2009)は、長野県松本市の松本城の魅力や、他の松本市の観光スポットの印象などを明らかにするため、外国人観光客に対するアンケート調査を行った。その結果、外国人観光客にとっての松本城の魅力は自然環境や歴史にあるということが明らかになった。

3. 「観光三重」に関するインタビュー調査

本章では、先行研究の「2. 1. 訪日タイ人観光客の現状」と「2. 2. 外国語による日本の観光情報提供について」を参考に、外国人の母語で観光情報を提供する効果を検証する。そのために三重県観光情報サイトの担当者（日本語版及びタイ語版）へのインタビューを実施する。

3. 1. 三重県観光連盟の担当者へのインタビュー

本節では、外国人に母語で観光情報を提供している効果を明らかにするため、公益社団法人三重県観光連盟事務局次長にインタビュー調査を行うこととする。インタビューはZOOMで2023年3月2日午前9時15分から2時間程度行った。

質問1：ウェブサイトではどのような情報が提供されているか。どのような機関と連携しているか。

回答1：外国人ライターが、外国人の目線で感じた三重県の魅力を発信している。体験コンテンツの魅力を発信し、ホームページから直接予約ができるようにして、観光事業者や観光協会の収入を増加させることにつなげたい。

質問2：多言語サイトの立ち上げについて

回答2： 2008年（英語のみ）

2009年フランス語追加

2010年 スペイン語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、タイ語、マレー語、インドネシア語、アラビア語追加

2011年 韓国語、中国語（簡体字、繁体字）、ポルトガル語を追加

2015年 トリップアドバイザーと提携してHPを作成

<https://www.travel.pref.mie.lg.jp/>（現在も閲覧できますが、更新されていません）

2017年度 繁体字HP（現行HP）を作成

2018年度 英語HP（現行HP）を作成

2019年簡体字、韓国語、タイ語（いずれも現行HP）を作成

2020年度 スペイン語HP（現行HP）を作成

質問3：ウェブサイト立ち上げによる効果について

回答3：有名でない観光地の魅力を発信することができたこと。きっかけは、ウェブサイトで三重県の有名な観光地紹介を投稿する同時に有名でない観光地の紹介も投稿し、閲覧者も見やすいようである。

3. 2. 三重県観光のタイ語版担当者へのインタビュー

本節では、タイ語で三重県の観光情報を提供している効果を明らかにするため、三重県雇用経済部観光局海外誘客課（主事）に調査を行う。調査は、2023年3月2日に公益社団法人三重県観光連盟を通じてEメールにて質問のリストを添付することとした。

質問1：立ち上げの目的

回答1：三重県はタイ人観光客が増えている時期で、タイから観光客を誘致するための観光プロモーションを行い、三重県観光情報を発信するために三重県タイ語版 FACEBOOK を始めた。また、タイ語に翻訳するためにタイにいる営業代理人と協力している。

質問2：観光情報の提供方法について

回答2：三重県の観光情報をタイ人に広めるため、タイ語で翻訳することはタイにいる営業代理人が選りすぐった情報を発信している。タイ人が興味を持ちやすく、「いいね」やシェア、コメント、フォロワーの増加につながる情報を発信することを目指している。ただし、課題として、現在の問題は、三重県の FACEBOOK ページのフォロワーの中には、情報をあまり見ていない人が多く、三重県の PR につながっていない状況である。そのため、三重県のファンとして、より多くの人が情報を見てアクションを起こすようにする必要がある。

質問3：将来的な開発および改善の計画等について

回答3：引き続きタイ人目線での三重県の観光情報を発信し、フォロワーを増やすだけでなく、FACEBOOK を通じて三重県とフォロワーの交流の場を作り、三重県ファンのコミュニティを形成することで、観光客を誘致することを目指している。

3. 3. インタビュー調査結果のまとめ

3. 1. から、英語だけではなく、外国人の母語と同じ言語で観光情報を提供している効果について確認した。情報を提供するのは外国人ライターであり、外国人向け体験コンテンツなどの三重県の魅力を紹介している。サイト立ち上げによる効果として、有名でない三重県の魅力を発信することができたことが明らかになった。多言語サイトを立ち上げたのは、英語ができない、または得意ではない外国人観光客の増加に対応するためとのことであった。また、3. 2. における三重県観光のタイ語版の担当者のインタビューによると、近年では三重県観光はタイ人観光客が増えており、県内観光の宣伝のため、タイ語版の追加することにしたとのことである。そして、タイ人がよく使用している FACEBOOK ホームページで情報を提供することとしたことが明らかになった。

4. タイ人観光客の意識に関するアンケート調査

4. 1. アンケートの概要

目的：三重県の観光についてのタイ人観光客の意識を明らかにする

調査方法：Google Form

調査時期：2023年5~6月

調査対象：タイ人50人

1. 日本の三重県に行ったことがあるタイ人観光客（23人）
2. 日本に行ったことがあるが、三重県を訪れたことがないタイ人観光客（18人）
3. 日本を訪れたことがないタイ人（9人）

具体的な質問内容については次節で詳しく見ていく。

4. 2. アンケート調査結果

第1部：個人情報

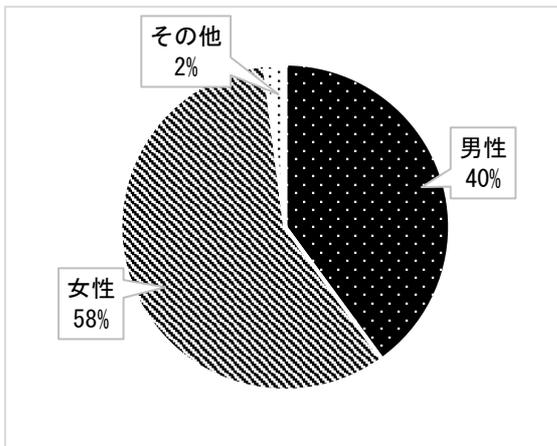


図1 性別

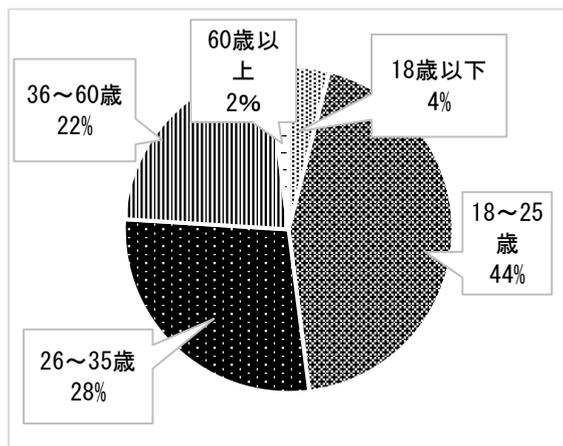


図2 年齢

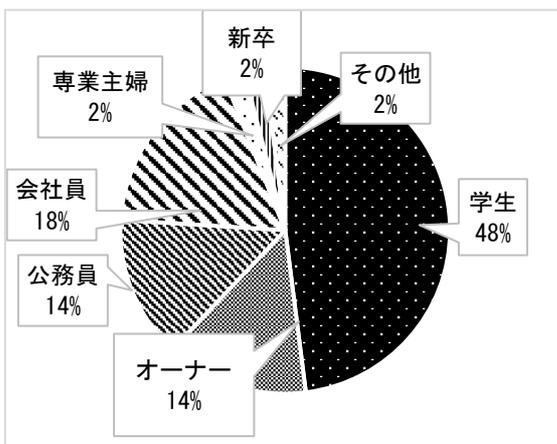


図3 職業

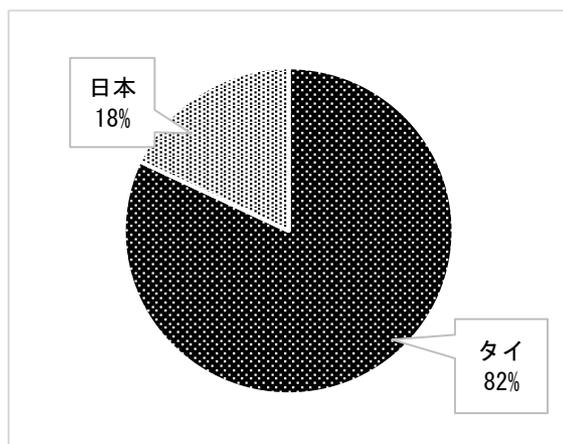


図4 居住地

図1～4から分かるように、性別や年齢、職業などさまざまである。調査協力者のうち、18%（9人）は日本に滞在していることが分かる。

第2部：訪日歴

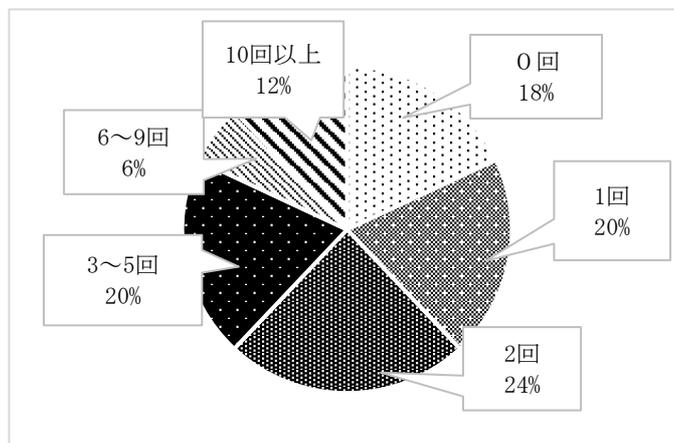


図5 観光目的で日本を訪問した回数

図5から観光目的で訪日した経験を持つ人は全体の82%（41人）であることが分かった。

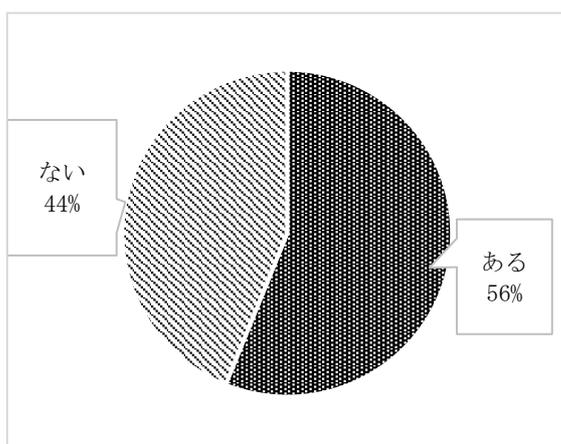


図6 三重県を観光したことがある割合

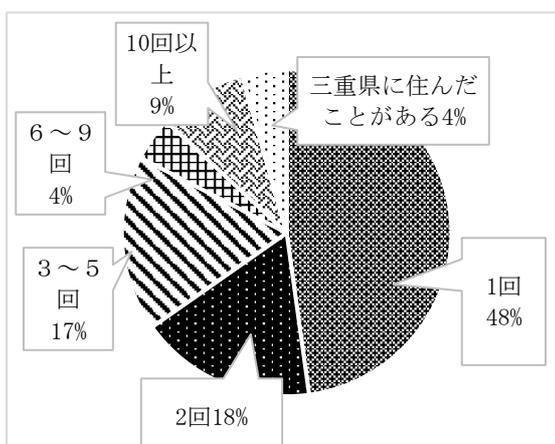


図7 観光目的での三重県訪問の回数

図6と図7から三重県の訪問歴に関する結果が分かる。訪日歴がある観光客の41人のうち56%（23人）が三重県を訪れたことがある。観光目的での三重県訪問の回数の半分近くが1回であり、48%を占めている。

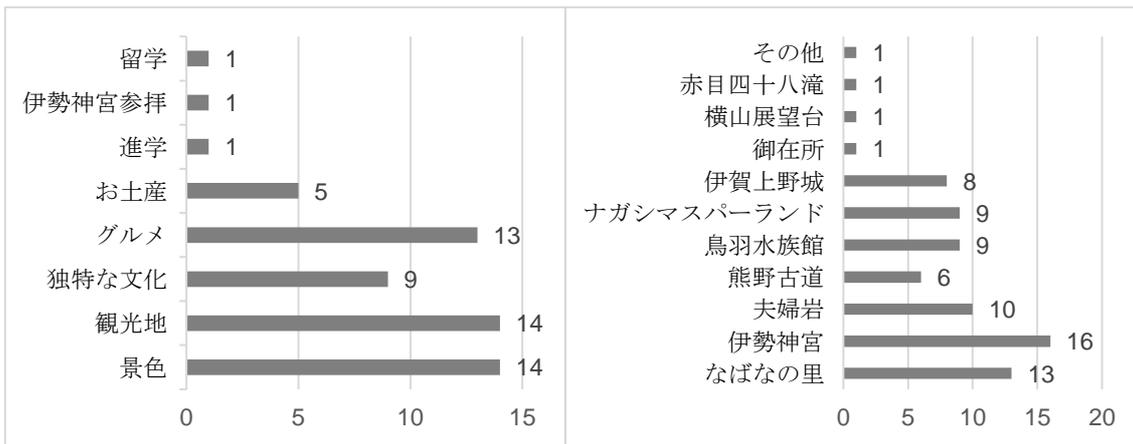


図8 観光で三重県を訪れた理由

図9 訪問した三重県の観光地

図8の結果から三重県を訪問するタイ人の観光客の理由は「景色」14人、「観光地」14人、「グルメ」13人が上位を占め、その他には「文化」、「お土産」、「神宮参拝」などであることが分かった。そして、図9が示しているように、訪問した三重県の観光地の1位は「伊勢神宮」で、2位は「なばなの里」、3位は「夫婦岩」であった。

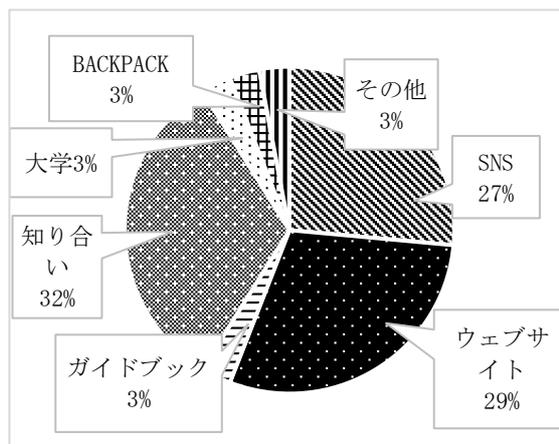


図10 三重県の観光情報源

図10は三重県の訪問者に三重県の観光客情報源に関する質問の結果である。1位は「知合い」から32%、2位は「ウェブサイト」の29%、3位は「SNS」の27%であった。他には「ガイドブック」、「大学」、「BACKPACK」、「その他」などがあり、それぞれ3%であった。

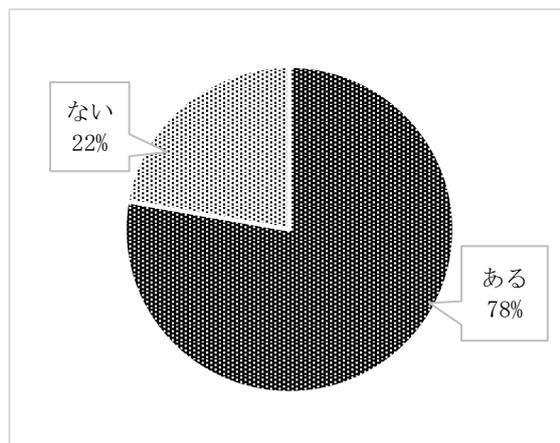


図 11 三重県に行きたいという考えがあるか

図 11 から訪日歴があるが、三重県に訪問したことがないタイ人観光客に「三重県に行きたいという考えがあるか」という質問をしたところ、「はい」と回答したのは78%、「いいえ」は22%であった。以下に、それぞれの回答の理由を紹介する。

「はい」と答えた理由

- 行ったことがないから
- 近畿（関西）地方に行きたいから
- 景色が美しく面白いから
- 新しい体験がしたいから
- 初めて聞いて、面白いから
- 人気のスポット以外に行ってみたいから
- 松阪牛を試してみたいから
- 日本の47都道府県全てに行ってみたいから

「いいえ」と答えた理由

- 他の場所に行きたいから
- 三重県での観光地を知らないから

ブログ、観光レビューなどの観光情報があまりなく、三重県での面白いスポットを知らないから

「三重県に行きたいという考えがあるか」という質問で、「はい」と答えた理由を見ると、回答者は三重県に行ったことがないが、SNSやウェブサイトなどから三重県の観光情報を得ており、三重県の観光情報がある程度知っているからであった。もしくは初めて聞いてから関心を持つようになり、三重県に行ってみたいと考えたようである。一方、「いいえ」と答えた理由は、三重県の観光情報提供源の情報アクセスが少ないこと及び旅行者の観光レビューのブログなどの情報が足りないことと考えられる。

第3部：情報アクセス

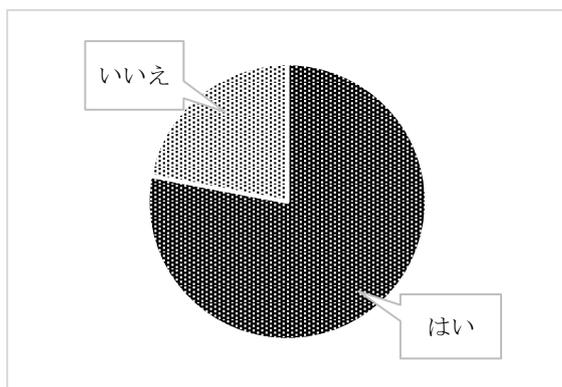


図11 「観光三重」ウェブサイトとFACEBOOKのファンページ「เที่ยวสนุก มิใช่ เฉพาะ」の認知度

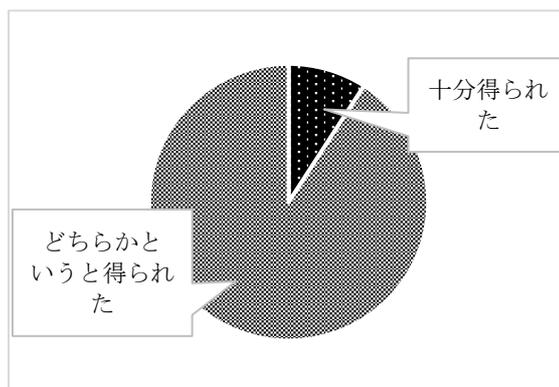


図12 有益な情報が得られたか (サイト・FACEBOOKを知っている人)

図11から「観光三重」ウェブサイトとFACEBOOKのファンページ「เที่ยวสนุก มิใช่ เฉพาะ」をご存じですか」と尋ねたところ、全体の回答者は78% (39人) が知っていると答えた。

そして、図12は、そもそものサイトやFACEBOOKを知っている人の回答者から有益な情報が得られた割合は全体的にある程度有益な情報が得られたと示した。

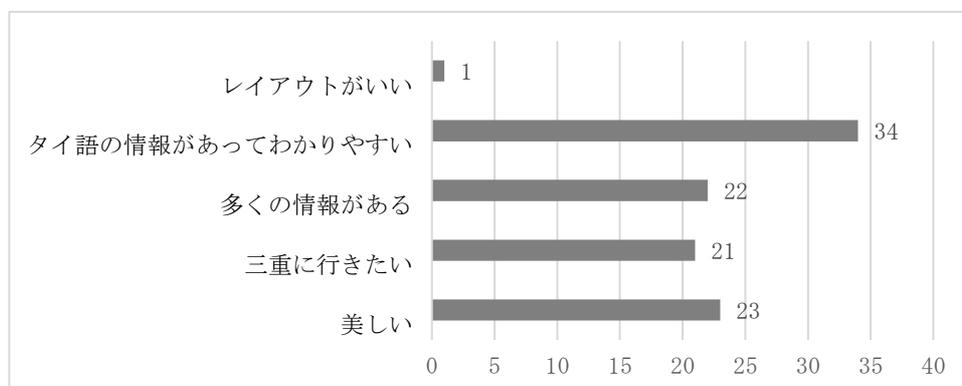


図13 三重県の観光情報サイトを見た感想

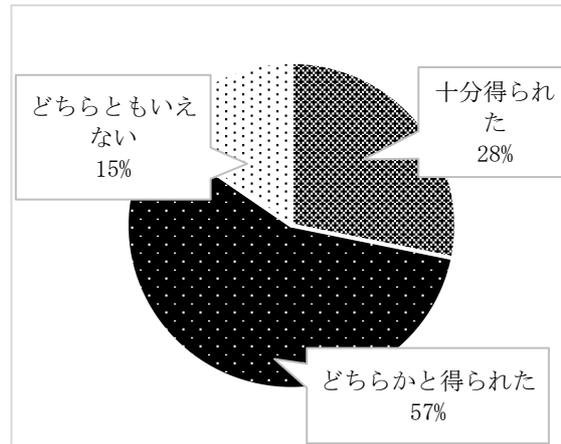


図 14 有益な情報が得られたか（サイト・FACEBOOK を知らない人）

図 13 は、三重県の観光サイトを知らない人に対して、ホームページと FACEBOOK のファンページを見てもらい、感想を尋ねた回答を示している。最も多かったのは「タイ語の情報があってわかりやすい」であり、34 人が選択した。次は「美しい」で 23 人、続いて「多くの情報がある」で 22 人、「三重に行きたい」で 21 人が選択した。そして、図 14 から、アンケート前に三重の観光サイトや FACEBOOK を知らなかった人の回答者のうち、80%強の人はある程度有益な情報が得られたと回答し、残り 15%の残りはどちらとも言えないと答えた。さらに、図 12（サイトや FACEBOOK を知っていた人）の結果と比較すると、アンケートに回答する前に三重の観光サイトや FACEBOOK を知らなかった人は情報の関心が低いと考えられる。

第 4 部：その他、お気づきのこと

- 各季節の面白い祭りなどの観光情報を希望
- もっと宣伝してほしい
- 観光地の安全性を強調してほしい
- 行ってみたい
- タイ人たちに三重県の観光を紹介したい。三重県は都会ではないが、文化や自然が豊富でタイ人の観光客が三重県を訪れることを待っている
- 観光情報やホームページを発達して続けてほしい。三重県の観光が関心のある人ない人にも大変役に立つ
- 三重県のあまり知られていない店のリストがほしい
- 情報がわかりやすいよう、ファンページの色やデザインが目立つようにしてほしい。

4. 2. アンケート調査結果の考察

アンケート調査結果によると、図9の回答から、三重県訪問の理由は「景色」「観光地」「グルメ」であることから、「三重県の観光地」「名古屋、大阪から近い観光地」「松阪牛が食べられる所」などで検索した可能性があることが分かった。「赤目四十八滝」「横山展望台」「御在所」については、回答者による自由記述である。3. 1. の質問3から、有名な観光地以外の観光地情報を提供することと関係があると考えられる。次に、三重県訪問の理由第1位は「知り合いからの情報」で32%を占めており、知り合いからの情報が最も有効であることが分かった。また、訪日歴があるが、三重県を訪問したことがないタイ人観光客のうち、三重県に行きたいという考えがある人たちは、SNSやウェブサイトを通じて三重県の観光情報を知り、関心を持ったり、訪れたいと思ったりしたということが分かった。一方、三重県に行きたいという考えがないと回答した人の理由は、三重県の観光情報提供源の情報アクセスと旅行者の観光レビューのブログなどの情報不足に関連していることが示唆された。

また、全体の回答者において、観光ウェブサイトとFACEBOOKのファンページの認知度が高いことから、本よりもインターネットアクセスのSNSやウェブサイトから情報を得る人が多いことが分かった。そして、もともとサイトやFACEBOOKを知っていた人と比較すると、アンケートする前にサイトやFACEBOOKを知らなかった人は情報の関心が低いことが示唆された。さらに、アンケート回答者によって、季節ごとの面白い祭りやあまり知られていない店を追加してほしいなどの提案が示された。つまり、インターネットでの観光情報の宣伝や面白い情報提供は、三重県を訪問する決定に大きな影響を与えると考えられる。

5. まとめと今後の展望

本研究では、三重県を訪問するタイ人観光客を増加させることを目的とし、外国語（タイ語）で観光情報を提供することで得られる効果について調査した。観光ウェブサイトの担当者のインタビュー調査を行った。さらに、タイ人観光客の意識を明らかにするため、タイ人観光客に意識アンケート調査を行った。その結果、三重県におけるタイ人観光客を増加させるには三重県観光の情報を提供し続けるべきであるが、その内容には工夫する余地があることも明らかになった。アンケートの回答のコメントから「各季節の面白い祭りなどの観光情報を希望する」、「三重県のおすすめの、あまり知られていない店のリストがほしい」などの要望が見られたことから、今後はさらに面白い情報の追加、観光地へのアクセスの追加、タイのインフルエンサーによる宣伝の追加などを行っていくことが効果

的であると考えられる。そして、三重県訪問歴のある人のうち「友人からのお勧め」による三重県訪問者が最も多かったことから、今後は友人から勧めてもらった効果的な方法について、より具体的に検討していきたい。また、三重県に訪問歴がある人に対するさらなる調査の実施を行いたい。具体的には、「三重県を選んだ理由」、「具体的な旅行計画」、「他の訪問地の有無」などである。最後に、対象者の年齢を参考に、どのような SNS が効果的であるのかについても検討し、年齢と SNS の関係についても検討していきたい。

参考文献

- (1) JNTO. (2022年10月13日). 『国籍/目的別 訪日外客数 (2004年～2021年)』.
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/
- (2) 三重県雇用経済部観光局観光政策課. (2020). 『三重県観光振興基本計画 (令和2 (2020) 年度～5 (2023) 年度) 』, 38 ページ.
- (3) 三重県雇用経済部観光局観光政策課. (2021). 『三重県観光振興基本計画年次報告書 (令和2 年度施策実地状況) 』.
- (4) 観光三重(かんこうみえ). (2022年12月10日). 「三重県の観光・旅行情報はここ！」.
<https://www.kankomie.or.jp/>
- (5) 野呂純一, ラタナピタック・キティカーン. 「訪日タイ人観光客の特徴とタイ人から見た日本の魅力についての一考察 —訪日外国人消費動向調査とタイ大学生に対するアンケート調査から」.
<http://id.nii.ac.jp/1082/00009269/>
- (6) 中田和子. (2009). 「外国人観光客に見る松本城の魅力—訪松本城外国人観光客のアンケート調査結果より」. 地域総合研究 / 松本大学地域総合研究センター, 松本大学自己点検・評価委員会 編, 105-120. <https://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I000007897181-00>
- (7) 三ツ木丈浩. (2017). 「日本の観光プロモーションについての一考察 —DMOにおける多言語観光情報発信を中心に—」. 埼玉女子短期大学研究紀要, 81-99. https://saijo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=500&item_no=1&page_id=13&block_id=83

(8) コチャストーン・ワンニダー, ヴォラパーニット・ノン. (参照 2023 年 6 月 10 日). 「**Factor Influencing on Thailand Tourists for Revisiting Japan**」. <http://www.journalgrad.ssrui.ac.th/index.php/mini-conference/article/view/1457>

(9) シュンサン・ニミット, サントーン・スパットラー. (参照 2023 年 6 月 10 日). 「**Factors influencing Thai tourists' travelling intention to Japan**」. <https://so02.tci-thaijo.org/index.php/jitt/article/view/241477/165162>

<要旨>

จากข้อมูลของหน่วยงานส่งเสริมการท่องเที่ยวแห่งประเทศไทยในช่วงปี พ.ศ. 2552-2564 ประเทศญี่ปุ่นมีนักท่องเที่ยวจากประเทศไทยมากที่สุดในกลุ่มประเทศเอเชียตะวันออกเฉียงใต้ และเป็นอันดับหนึ่งในประเทศกลุ่มเอเชียตะวันออกเฉียงใต้ที่มีนักท่องเที่ยวมาเยี่ยมเยือนและพักค้างแรมมากที่สุดในจังหวัดมิเอะ วัตถุประสงค์ของการวิจัยนี้คือต้องการทราบประสิทธิภาพของการให้ข้อมูลนักท่องเที่ยวในจังหวัดมิเอะด้วยการใช้ภาษาไทย และความคิดเห็นของนักท่องเที่ยวชาวไทยเกี่ยวกับจังหวัดมิเอะ

ดำเนินการวิจัยโดยการสัมภาษณ์ผู้ดูแลเว็บไซต์การท่องเที่ยวของจังหวัดมิเอะ และการแบบสอบถามสำรวจเกี่ยวกับนักท่องเที่ยวในจังหวัดมิเอะ โดยมีกลุ่มเป้าหมายคือนักท่องเที่ยวชาวไทย 50 ราย

ผลสัมภาษณ์ผู้ดูแลเว็บไซต์การท่องเที่ยวของจังหวัดมิเอะแสดงให้เห็นถึงวิธีการให้ข้อมูลการท่องเที่ยวโดยใช้ภาษาต่างประเทศ และประสิทธิภาพของการให้ข้อมูลโดยใช้ภาษาไทย ในส่วนของการทำแบบสอบถาม ทำให้ทราบถึงประวัติการมาเที่ยวญี่ปุ่น และประวัติการมาเที่ยวจังหวัดมิเอะ รวมถึงปัจจัยในการเลือกสถานที่ท่องเที่ยวและการเข้าถึงข้อมูล

และปัจจัยสำคัญที่มีผลต่อการเลือกมาจังหวัดมิเอะคือ วิธีการประชาสัมพันธ์ การนำเสนอข้อมูลการท่องเที่ยวที่น่าสนใจผ่านความรู้จักษ์ และเว็บไซต์ การวิจัยนี้มีข้อสรุปได้ว่า จังหวัดมิเอะควรเผยแพร่ข้อมูลการท่องเที่ยวแบบนี้ต่อไป

แต่ควรปรับปรุงเพิ่มเติมในส่วนของกรให้ข้อมูลการท่องเที่ยว และวิธีการประชาสัมพันธ์ให้น่าสนใจกว่านี้

เพื่อดึงดูดนักท่องเที่ยวชาวไทยให้มาท่องเที่ยวในจังหวัดมิเอะเพิ่มมากขึ้น

三重大学国際交流センター日本語日本文化研修プログラム

2022年度日本語日本文化研修生 研究成果最終発表会

2023年7月21日（金）13:00～14:30（CIER 2階視聴覚室）

ゲートイン・ティティガーン
タイ語版三重県ガイドの効果とタイ人観光客の意識

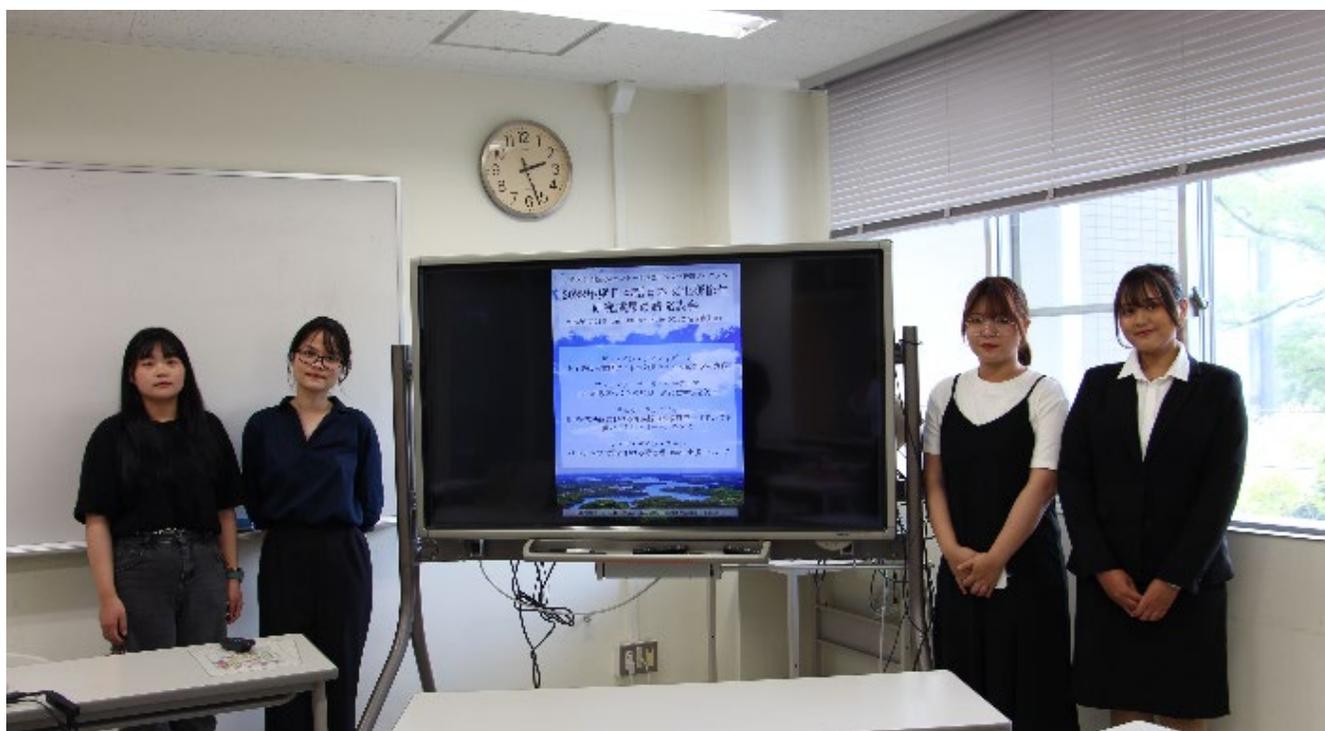
ファディラ・ザーラ・サーディア
日本の歌舞伎文化の展望：滝沢歌舞伎を例に

リュウ・ギョウエイ
日中家族映画における家族観の比較研究—『歩いても歩いても』と『一—』を例に

レ・ヴ・タイン・チャン
ベトナムの大学における障害者の学生支援について

国際交流センター主催 連絡先 正路 (shoji.shinichi@dhier.mie-u.ac.jp)

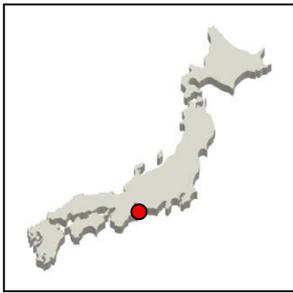
最終発表会の様子





2023年度8月4日（金）修了式にて





三重大学 (三重県)



将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指し、国際的に活躍する人を育てるためのコースです。

■大学紹介

①大学の特色及び概要

◆三重大学は総合大学で、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5学部があります。また、大学院は地域イノベーション学研究科を加えた6研究科があり、キャンパスは津市にあります。自然環境に恵まれ、キャンパスのすぐ東側には海岸の波が打ち寄せ、北西には鈴鹿の山が連なります。

◆学生数・教員数

学部学生数：5,928名

大学院生数：1,119名

教員数：753名

外国人留学生数：174名 (27カ国)

<2021年5月1日現在>

◆環境先進大学

本学は国際規格であるISO 14001の認証を受けて様々な環境マネジメントシステムを構築しています。

②国際交流の実績

◆三重大学は、外国の115大学・機関と、大学間または学部間の学術交流協定を結んでいます。これらの大学とは、教員・学生の交流、学術情報の交換などを行っています。

<2021年4月1日現在>

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

	留学生	日研生
2021年度	174名	5名
2020年度	204名	4名
2019年度	291名	4名



伊勢神宮 内宮



鈴鹿サーキット



伊賀上野城



三重大学国際交流センター

④地域の特徴

◆津市は、三重県の県庁所在地です。人口は約28万人、温暖な気候で暮らしやすいところです。交通も便利で、大阪へのアクセスは約1時間半、京都へは約2時間、東京へも約3時間です。

◆三重県は、歴史や文学・国学の豊かなところです。すでに8世紀には『万葉集』の詩歌にうたわれ、多くの小説の舞台となりました。三島由紀夫が小説『潮騒』に描いた神島も、ここ三重県にあります。俳句を詠んだ松尾芭蕉は現在の三重県の地に生まれ、「文学の神様」と呼ばれる横光利一も中学時代を三重県で過ごしました。

◆県内には多くの史跡や名勝があり、観光客もたくさん訪れます。伊勢神宮を中心とした歴史的建造物、古い宿場町や歴史街道も残っています。また、熊野古道は、2004年7月に世界遺産に登録されました。

◆県内にある鈴鹿サーキットは、「日本のモータースポーツの聖地」と言われてきました。F1日本グランプリが開かれることにより、世界各国から多くのファンが集まります。

◆三重大学国際交流センターは、三重大学における国際交流の要として、本学の国際的な教育研究の充実、及び地域の国際化に寄与することを目的とし、様々な国際的な活動の企画・推進を行っています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

◆将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指している人のためのコースです。

◆地域住民及び三重大学生、在日外国人や留学生との相互交流を通して、日本文化や異文化への理解を深めることができます。

◆それぞれの指導教員の下、各自が設定したテーマや、基礎的な研究や報告書の書き方について学ぶことができます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦1名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(1)と(2)の両方の条件を満たすこと。

(1) 本国の4年制大学において、日本語・日本語教育・日本文化関係を専攻している人（2年生以上）。

(2) 日本語能力試験N2以上か、それに相当する日本語力がある人（語彙を約4,000～6,000語、漢字を約600～800字以上、既に習得している人）。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化研究を通して、母国と日本のかけはしとなる学生の育成。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2022年9月下旬～2023年8月下旬
（在籍期間：2022年10月1日～2023年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月～2023年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

◆秋学期（後期）

9月下旬 渡日／オリエンテーション
日本語レベル判定試験

10月 ウェルカムパーティ
授業開始

11月 大学祭
12月 研修旅行
国際交流ディズ

2月 期末テスト
中間発表会

◆春学期（前期）

4月 授業開始
7月 最終発表会
8月 盆踊り大会
研修レポート提出
修了式／帰国



⑨ コースの修了要件

日本語日本文化演習AB及び各レベルの必修科目及び選択科目から、各学期合計7科目以上受講し、また日本語による研修レポートの執筆と研修発表（中間発表会・最終発表会）をします。成績判定は、教員による成績会議で総合的に判断されます。コース修了が認められた学生には、成績証明書および修了証書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

◆日本語や日本文化、または三重県に関するテーマを決めて、担当教員の指導のもと研究または実践活動を進めます。

2月初旬：中間発表会
7月中旬：最終発表会
8月末：研修レポート提出〆切



◆コースに入りしだい、日本語レベル判定試験を受けます。その結果により中級Ⅱレベルと上級レベルに分かれます。自分のレベルに合わせて、中級後半から上級レベルの日本語を集中的に学習します。

2) 研修・コース開設科目（全て90分×16回／学期）

I) 必修科目

◆中級Ⅱ

授業名 （単位数）	主な目標
(1) 文法・読解 （1単位）	中・上級レベルの表現文型を体系的に学び、運用する力を身につける。
(2) 読解・作文 （1単位）	大学の専門分野の学習への橋渡しとして、高度な文章を総合的に読解できる力をつける。
(3) 聴解・会話 （1単位）	映画・アニメーション・ドラマ等の視聴を通して、生の日本語を聞き取り、意見交換を通して聴解・会話力を高める。
(4) 日本語・ 日本文化演習 （1単位）	自分の専門分野に関する研究を進め、研修レポートを書くための指導を受ける。
(5) 日本事情 Ⅰ：三重の社会 と文化（2単位）	日本と三重県の社会文化環境を学外研修などを通して、楽しみながら理解する。

◆上級

授業名 （単位数）	主な目標
(6) 上級総合日本語Ⅰ（1単位）	学術的な小論文の書き方の基礎を学ぶ。また、実際に小論文を書く。
(7) 上級総合日本語Ⅱ：留学生と学ぶ日本（1単位）	三重大学生とのディスカッションを通して、日本社会・文化への理解を深めたり、自分の意見を発表したりする。
(8) 日本語・日本文化演習（1単位）	自分の専門分野に関する研究を進め、研修レポートを書くための指導を受ける。
(5と同じ) 日本事情Ⅰ：三重の社会と文化（2単位）	日本と三重県の社会文化環境を学外研修などを通して、楽しみながら理解する。

Ⅱ) 選択科目

●日本語による科目

(9) 上級へのステップアップ (1単位)

(10) 日本事情Ⅱ：メディアと日本(後期) (2単位)

●英語による科目

(11) 日本学：メディアと日本(前期) (2単位)

(12) 世界遺産と私たち (2単位)

(13) 環境問題と地球 (2単位)

(14) 英語でエッセイ (2単位)

(15) 日本文化紹介 (2単位)

◆上級レベルの人は中級Ⅱの授業科目を、中級Ⅱレベルの人は中級Ⅰの授業科目を選択科目として受講することもできます。

◆上記の国際交流センターの科目のほかに、他学部の科目を選択し、受講することもできます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

必修科目の、日本事情Ⅰ：三重の社会と文化(= (5))では、三重県のような場所を訪問して地域の文化や産業などについて学びます。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

必修・選択科目のうち、以下の科目では日本人学生と共に学ぶことができます。

●日本語による科目

上級総合日本語Ⅱ：留学生と学ぶ日本(= (7))

日本事情Ⅱ：メディアと日本(後期)(= (10))

●英語による科目

日本学：メディアと日本(前期)(= (11))

世界遺産と私たち(= (12))

環境問題と地球(= (13))

英語でエッセイ(= (14))

日本文化紹介(= (15))

⑪ 指導体制

◆福岡昌子教授(専門：音声・第二言語習得)

◆松岡知津子准教授(専門：文法)

◆栗田聡子准教授(専門：メディア心理学)

◆正路真一助教(専門：心理言語学・第二言語習得)

■宿 舎

三重大学には現在留学生用の宿舎が3つあります。「外国人留学生寄宿舍」は、留学生と日本人学生が部屋をシェアして共同生活し、異文化交流を通してグローバルな視点を持てる場となっています。

①外国人留学生会館(1988年建設)

月額 6,900円～14,000円

②外国人留学生寄宿舍(2009/15年建設)

月額 7,500円～30,000円

③国際女子学生寄宿舍(1973年建設) 月額 5,900円



上(左) 外国人留学生寄宿舍外観

(右) 同 共用キッチン

下(左) 同 シェアルームのダイニング

(右) 国際女子学生寄宿舍居室

■修了生へのフォローアップ

修了生と在校生の交流を目的に、12月の国際交流デイズでイベントを開く予定です。

■その他の学習支援体制

◆日本語チューター

三重大学生が留学生の日本語の向上や日本文化への理解を深める機会を与えます。日常生活のサポートもします。

◆てらこやサークル

三重大学生による日本語学習のボランティアサークルです。一緒に会話の練習をしたり、日本語の宿題をみてもらうことができます。

■ホストファミリー・プログラム

希望する留学生は「セカンド・ホーム」というプログラムに登録し、週末や休日を一緒に楽しく過ごすためのホスト・ファミリーを持つことができます。約30年の歴史を持つ市民交流プログラムです。



三重大学上浜キャンパス

シロモチくん
(津市PRキャラクター)

■問合せ先

<担当部署>

三重大学国際・情報部国際交流チーム

住所： 〒514-8507

三重県津市栗真町屋町1577

TEL： +81-59-231-9688 (直通)

FAX： +81-59-231-5692

Email： ryugaku@ab.mie-u.ac.jp

<ウェブサイト>

三重大学国際交流センター：

<http://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>

三重大学：

<http://www.mie-u.ac.jp/>

✿ 編集後記 ✿

『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集 XX』をお届けします。2022年度に三重大学国際交流センターが受け入れた日本語・日本文化研修留学生（第20期生曰研究生）は大学推薦による国費外国人留学生4名で、中国、ベトナム、タイ、インドネシアからそれぞれ1名ずつを迎えました。

研修生たちは、2022年9～10月に来日してから2023年8月までの約一年間、三重大学の日本語や日本文化の授業を受講するのと並行して、各自研究レポートの作成に取り組んできました。研究レポートというものを初めて書く学生も多く、皆苦労しながら執筆したのが、本レポート集に収められたものです。研修期間の半ばに行われた中間発表会では各教員から修正の提案を受け、また最終発表会でもらったコメントやアドバイスの内容を反映させ、何度も書き直して完成までこぎつけました。大変だったと思いますが、こうして長い研究レポートを書き上げた経験は、研修生たちの、学生としての成長の糧であり、学びの証であると思います。

最後に、2022年度日本語・日本文化研修プログラムの運営には、例年と同じく多くの皆様にご協力をいただきました。あたたかいご指導を賜りました先生方、ならびに職員、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

2023年9月

日本語・日本文化研修コース

コーディネーター 正路 真一